



Oita  
University  
Campus  
Master  
Plan  
2024



国立大学法人大分大学長  
北野 正剛

## キャンパスマスタープランの実現に向けて

大分大学は、昭和24年(1949年)、学芸学部(現在の教育学部)と経済学部からなる新制大学として発足しました。平成15年(2003年)に大分医科大学との統合を経て、現在は、5学部5研究科を擁する総合大学へと発展することができました。

昨今、絶えず変化するVUCA時代において、今後の社会情勢・社会構造を見据えた、地域の課題解決に資する人材の育成、並びに知識の集約、新たな価値の創生のための大学中心の「イノベーション・commons(共創拠点)」の構築・推進が求められています。

本学は令和4年(2022年)に「大分大学ビジョン2040」を策定し、地域コミュニティの「核」として、本学の果たすべき役割・未来のあるべき姿を示しました。令和5年(2023年)4月には医学部に、医学・医療の基盤を支え、自然科学と社会科学の融合による「総合知」を創造し、イノベーション創出に発展させることのできる融合人材を育成する「先進医療科学科」を新設しました。令和7年(2025年)4月には、工学研究科を理工学研究科へ改組します。

本学は、時代が求める人材を輩出し、次代を見据えた研究を行うために、絶え間のない改革を行い、常に進化し続ける大学として社会に貢献します。

2016年度以降、「大分大学キャンパスマスタープラン2016」に基づき、附属病院の再整備や学生交流会館「B-Forêt」の新設、高度情報人材育成交流会館「B-Core」など、地域の活性化・魅力化に貢献するべく施設整備を推進してまいりました。今後、「地(知)の拠点」である本学がイノベーション・commonsとしての機能を発揮するためには、老朽化が著しい教育研究施設の整備及び機能強化など更なる整備が急務となっています。

「大分大学キャンパスマスタープラン2024」は、「大分大学ビジョン2040」に掲げるビジョンを実現させるため、並びに持続可能な未来社会への実現に向けた、本学のあるべき姿や取組を示した内容となっています。また、本学の「第4期中期目標・中期計画(令和4年度～令和9年度)並びに2021年3月に文部科学省より示された「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」に基づき策定しました。

「大分大学キャンパスマスタープラン2024」の実現に向け、本学の構成員が丸となって取り組む所存であります。皆様方のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 学章 (シンボルマーク)



「OITA」と「UNIVERSITY」の頭文字「O」、「U」をモチーフに、躍動感あふれる2つの円でデザインした学章(シンボルマーク)

外側の円(青色)は、教育・福祉・医療・環境・産業経済・科学技術など新しい大分大学の研究・専攻分野が、常に新しいものを目指し、止まることなく前進し続け、地域の発展、さらには国際社会の発展に貢献するグローバルな様子を表現している。

中央の半円は、人々が集い学び、そして社会的、文化的な交流・活動の場所である大学キャンパスを表現している。

「O」に使用している青色は、知性、誠実、探求心、自立心を表す色とされており、「U」の黄色は希望、成長、幸福を象徴する色とされている。

### 表紙デザインコンセプト

「未来へとつながる豊かな研究の場」

「創造的・多面的な思考力を育む場」

「多様な人々が交流する場」

これらのキーワードから、大分大学学章(シンボルマーク)に用いられている「青色」と「黄色」を基調とした線を使い交差させることにより、大分大学3キャンパスを表現しました。

キャンパスマスタープラン2024は、キャンパスマスタープラン2016(12年計画)の継続期間中における見直しという位置づけから、キャンパスマスタープラン2016のデザインコンセプトを踏襲。3キャンパスの線を成長させ、成熟により広がり脚光を表現しました。

# INDEX

## chapter-1 第1章 基本的事項

1-1	主要3キャンパスの概要（旦野原・挾間・王子）	1
1-2	キャンパスマスタープランの目的・位置づけ・構成	11
1-3	大分大学のアカデミックプラン	
	（1）大学憲章	13
	（2）大分大学ビジョン2040	15
	（3）第4期中期目標・中期計画	18
1-4	国立大学法人等施設整備5か年計画	19
1-5	大分大学の施設整備方針	
	（1）キャンパス整備の基本方針・整備方針・活用方針	21
	（2）施設マネジメントの基本方針	23
1-6	【これまでの成果】キャンパスマスタープラン2016	29

## chapter-2 第2章 主要3キャンパス共通計画（旦野原・挾間・王子）

2-1	サステイナブルキャンパス計画	33
2-2	ユニバーサルデザイン計画・災害対策	35
2-3	サイン計画	37
2-4	緑地維持保全計画	39
2-5	施設維持管理計画	41
2-6	施設有効利用計画	42

## chapter-3 第3章 旦野原キャンパス

3-1	施設の現状と課題	43
3-2	屋外環境の現状と課題	45
3-3	キャンパス整備の部門別計画	
	（1）ゾーニング計画	47
	（2）パブリックスペース計画	49
	（3）動線計画	51
	（4）インフラストラクチャー計画	53
	（5）施設整備計画（2028）	55
	（6）施設整備計画（2040）	59

## chapter-4 第4章 挾間キャンパス

4-1	施設の現状と課題	61
4-2	屋外環境の現状と課題	63
4-3	キャンパス整備の部門別計画	
	（1）ゾーニング計画	65
	（2）パブリックスペース計画	67
	（3）動線計画	69
	（4）インフラストラクチャー計画	71
	（5）施設整備計画（2028）	73
	（6）施設整備計画（2040）	77
	（7）感染症研究拠点を旨指して	79

## Chapter-5 第5章 王子キャンパス

5-1	施設の現状と課題	81
5-2	屋外環境の現状と課題	83
5-3	キャンパス整備の部門別計画	
	（1）ゾーニング計画	85
	（2）動線計画	87
	（3）インフラストラクチャー計画	89
	（4）施設整備計画（2028）	91
	（5）施設整備計画（2040）	95

## references

参考資料

# 第1章 基本的事項

## 1-1 主要3キャンパスの概要（旦野原・挾間・王子）

現在の大分大学は、平成15年10月に旧大分大学と旧大分医科大学が統合され、平成16年4月に国立大学法人大分大学として新しく誕生した。なお、主要キャンパスは、大分市内に2キャンパスと由布市内に1キャンパスの計3キャンパスからなる。

旦野原キャンパスは大分市の郊外に位置し、本学の本部があり『教育・研究・社会連携の拠点』として、教育学部、経済学部、理工学部、福祉健康科学部を配置している。敷地の65%を緑地が占め、野生動物も多く生息する自然豊かな環境で市民にも開放されたキャンパスである。

挾間キャンパスは、『医療・生命科学の拠点』としてキャンパスの東側に医学部、西側に附属病院を配置している。附属病院では、特定機能病院として求められる機能、多様化する患者・社会ニーズに対応するべく拠点病院としての再整備を行った。

また感染症研究の基盤拠点として、地上4階建てのグローバル感染症研究センターを2023年に設立した。

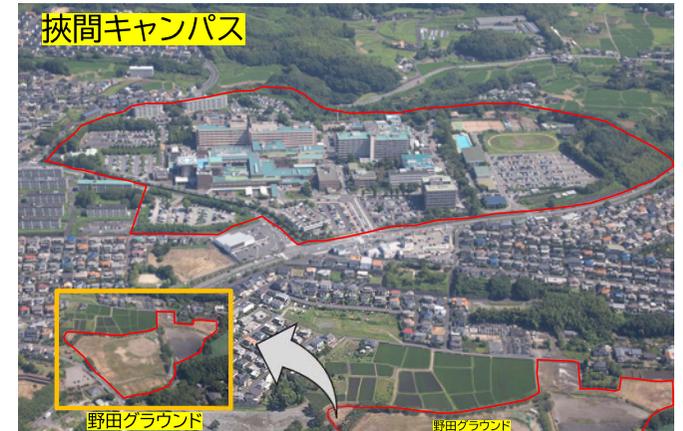
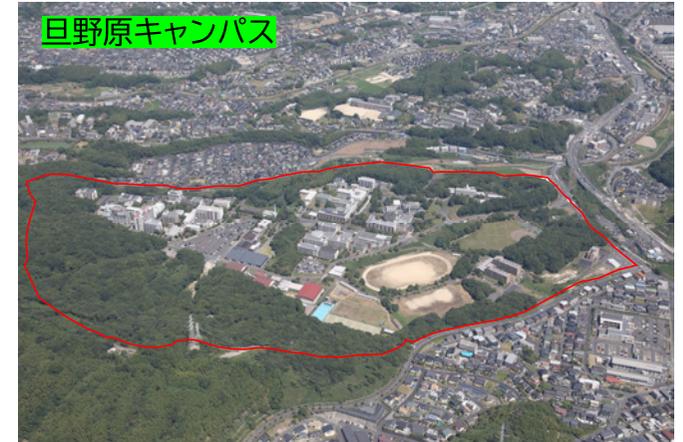
王子キャンパスは、教育学部附属学校のキャンパスであり、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校を配置している。1つのキャンパスに4校園が配置されており、子どもたちの教育環境に恵まれている。設立は昭和24年と本学で最も歴史のあるキャンパスである。

本学で学んでいる学部生・大学院生は5,469名、生徒・児童・園児は1,226名であり、勤務する教職員は2,138名である。

# OITA



主要3キャンパスの立地環境について、旦野原キャンパスは大分市南部、国道10号線沿いの高台に位置する。挾間キャンパスは由布市東部、大分市との境、県道207号線沿いの高台に位置する。王子キャンパスは大分市中心部（市役所から2km圏内）に位置する。3キャンパスの敷地面積の合計は約98万㎡、建築面積の合計は約9万㎡、延べ床面積の合計は約23万㎡である。



chapter-1  
chapter-2  
chapter-3  
chapter-4  
chapter-5

# 第1章 基本的事項

## 1-1 主要3キャンパスの概要（旦野原・挾間・王子）

### 学生・職員数

■学生・生徒・児童及び園児数 ※令和6年5月1日現在 ※人数は現員数とする

#### ■学部

教育学部	588人
経済学部	1,216人
医学部	970人
理工学部	1,664人
福祉健康科学部	422人
合計	4,860人

#### ■大学院

教育学研究科	31人
経済学研究科	53人
医学系研究科	148人
工学研究科	332人
福祉健康科学研究科	45人
合計	609人

#### ■教育学部附属学校園

附属中学校	461人
附属小学校	599人
附属幼稚園	113人
附属特別支援学校	53人
合計	1,226人

学生・生徒・児童及び園児合計 6,695人 総数 8,833人

■教職員数 ※令和6年5月1日現在 ※人数は現員数とする

#### ■教職員

事務局	463人
教員	681人
附属病院	946人
グローバル感染症研究センター	8人
教育マネジメント機構	12人
研究マネジメント機構	17人
学術情報拠点	4人
学内共同教育研究施設等	7人
合計	2,138人

※非常勤職員を除く

### 本学の歴史

大分大学は大分県師範学校、大分県実業補習学校教員養成所及び大分県女子師範学校を源流とする学芸学部（現：教育学部）、大分高等商業学校を源流とする経済学部により昭和24年開学し、昭和47年には工学部が設置された。

また、現在の医学部の前身である大分医科大学は昭和51年に開学した。国立大学法人化に伴い大分大学と大分医科大学は統合し、平成16年に国立大学法人大分大学が設置された。



### 教育研究組織の改組について

大分大学では、「大分大学ビジョン2040」や「国立大学改革方針」等を踏まえ、また、今後、少子高齢化が急激に進んでいく大分県における唯一の国立大学の役割を果たすべく、大分大学が持つ特色や強みを活かしながら、「地域活性化の中核的拠点」として、どのように機能を再構築し、強化を図るかという観点で検討を行っている。

なお、平成28年度に以下のとおり教育研究組織の改組を行い、福祉健康科学部を新設した。令和5年度には医学部に新学科を設置し、理工学部（旧：工学部）では求められる新時代の科学技術開発に対応するため再度改組を行った。また、令和4年度よりSTEAM教育充実に向け、数理デザインサイエンス科目の開設等の改組を進め、令和6年度には、経済学部において「総合的基礎力」を持つ人材を育成するための改組を行った。

### 主要3キャンパスの施設概要

※令和6年5月1日現在

※旦野原キャンパスは、構内宿舍及び藤蔭保管庫の建築面積及び延べ床面積を除く  
 ※挾間キャンパスは、看護師宿舍の敷地面積、建築面積及び延べ床面積を除く

キャンパス名	学部等	敷地面積	建築面積	延べ床面積	建べい率	容積率
旦野原	教育学部 経済学部 理工学部 福祉健康科学部 教育学研究科 経済学研究科 工学研究科 福祉健康科学研究科	653,982m <sup>2</sup>	39,777m <sup>2</sup>	86,154m <sup>2</sup>	6%	13%
挾間	医学部 医学系研究科 附属病院	256,025m <sup>2</sup>	41,164m <sup>2</sup>	121,408m <sup>2</sup>	16%	47%
王子	附属中学校 附属小学校 附属幼稚園 附属特別支援学校	73,930m <sup>2</sup>	12,160m <sup>2</sup>	19,570m <sup>2</sup>	16%	26%

年度	学部	課程/学科	変更内容
平成28年度	教育学部	1課程	改組 教員養成課程に特化
	経済学部	3学科	
	医学部	2学科	
	理工学部	5学科	
	福祉健康科学部	1学科	新設 (官制)「福祉」「心産」を設けた。専攻と学際教育を強調
	教育学研究科	修士1専攻 専門硕士学位課程1専攻	改組 専門硕士学位課程教員養成専攻専攻をそれぞれ1専攻に改組
令和5年度	教育学部	1課程	
	経済学部	4学科	
	医学部	3学科	新設 生涯学習科学の創出しを推進する先端医療科学科を設置
	理工学部	1学科	改組 新時代の科学技術開発に対応するため1学科10プログラムに改組
	福祉健康科学部	1学科	
	教育学研究科	専門硕士学位課程1専攻	
令和6年度	教育学部	1課程	
	経済学部	1学科	改組 1学科6コースとなり包括的・総合的な教育を強調
	医学部	3学科	
	理工学部	1学科	
	福祉健康科学部	1学科	
	教育学研究科	専門硕士学位課程1専攻	

# 第1章 基本的事項

## 1-1 主要3キャンパスの概要 (旦野原・挾間・王子)

### 旦野原キャンパスマップ

- 本部管理棟
- 1 総務課／企画課／人事課／財務企画課／経理課  
／施設企画課／監査室／IRセンター  
／研究マネジメント機構実務総括本部 (URA室)
  - 2 門衛所
  - 3 ダイバーシティ推進本部 (男女共同参画推進室)

- 経済学部
- 4 管理研究棟 (事務部・研究室)  
／大講義室棟／演習棟

- 教育学部
- 5 事務部／講義室／研究棟
  - 6 福祉健康・教育合同棟 (家庭棟)
  - 7 音楽室棟
  - 8 技術・美術棟

- 福祉健康科学部
- 6 福祉健康・教育合同棟
  - 9 管理棟 (事務部)
  - 10 研究棟
  - 11 多目的棟
  - 67 実習棟

- 理工学部
- 12 理工1号館 (事務棟)
  - 13 理工2号館
  - 14 理工3号館
  - 15 理工4号館
  - 16 理工第1講義棟
  - 17 理工5号館 (基盤技術支援センター)
  - 18 理工6号館
  - 19 理工大講義棟 (104号室)
  - 20 理工7号館
  - 21 理工第3講義棟
  - 22 計算機棟 (情報基盤センター、知能棟)
  - 23 理工8号館
  - 24 理工9号館
  - 25 理工第2講義棟
  - 26 建築構造材料実験室棟A, B
  - 27 理工10号館
  - 28 理工11号館
  - 29 理工12号館
  - 30 理工13号館

- 31 福祉健康科学研究科
- 31 教育マネジメント機構
- 31 地域連携プラットフォーム推進機構

- 教養教育／学生支援部
- 31 教育支援課／国際教育推進センター／講義室／研究棟
  - 32 第1大講義室
  - 33 第2大講義室
  - 34 キャリア支援室
  - 35 入試課／学生・留学生支援課

- 学術情報拠点
- 36 図書館／学術情報課
  - 22 情報基盤センター
- 保健管理センター
- 37 保健管理センター
- 研究マネジメント機構
- 38 研究推進センター／研究支援センター
  - 38 研究推進課／産学連携課／産学連携推進センター  
／研究マネジメント機構実務統括本部 (URA室)

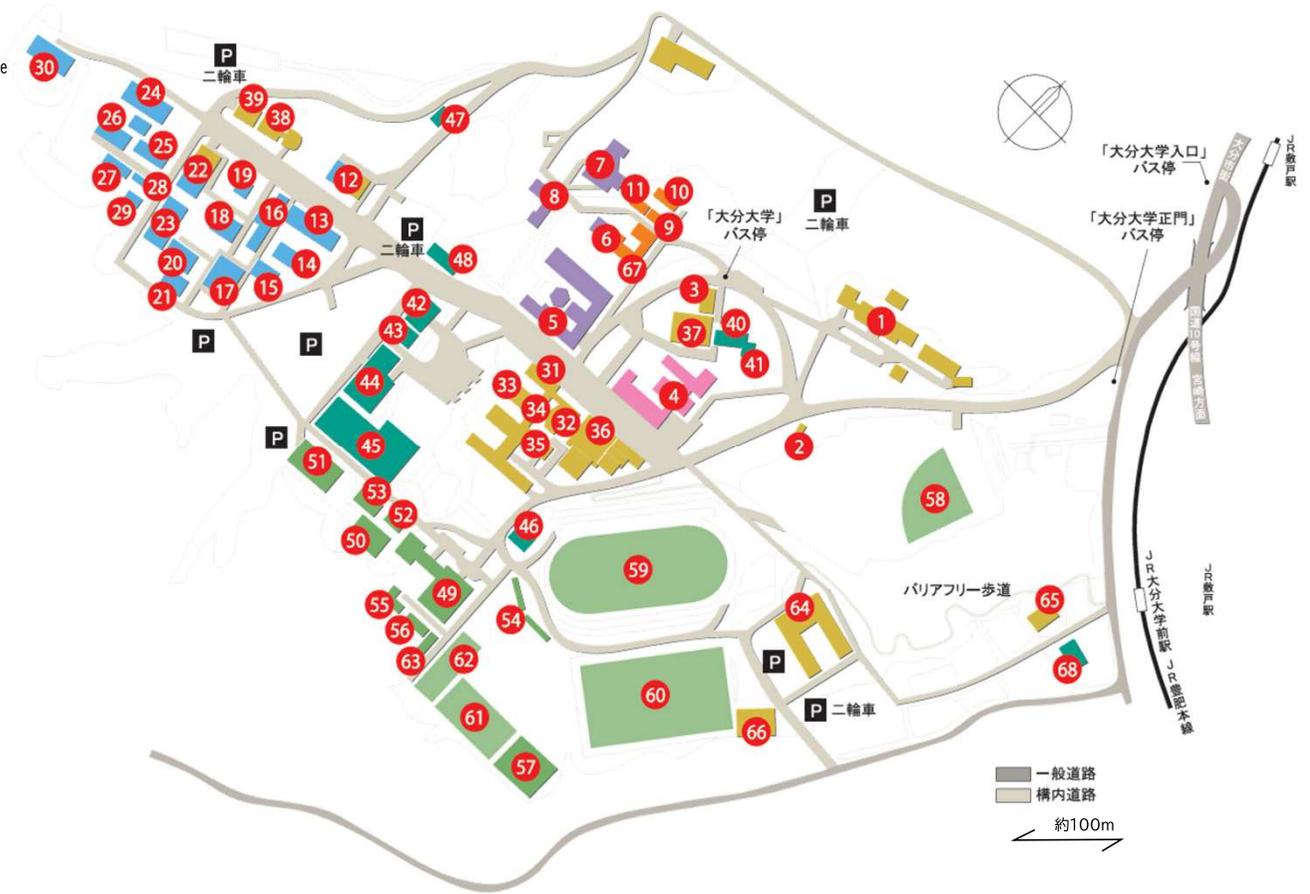
- 39 クライシスマネジメント機構  
／減災・復興デザイン教育研究センター

- 福利厚生サークル施設
- 40 学生会館
  - 41 びあROOM
  - 42 文科系課外活動共用施設
  - 43 コンビニエンスストア
  - 44 高度情報人材育成交流会館 B-Core
  - 45 学生交流会館 B-Forêt (食堂)
  - 46 体育課外活動共用施設
  - 47 合唱共用施設
  - 48 器楽共用施設
  - 68 コンビニエンスストア

- 体育施設
- 49 第1体育館／剣道場
  - 50 第2体育館
  - 51 第3体育館
  - 52 合宿研修室
  - 53 武道場
  - 54 体育系課外活動部室A・B
  - 55 卓球場
  - 56 体育系課外活動部室C
  - 57 弓道場
  - 58 野球場
  - 59 陸上競技場
  - 60 ラグビー場
  - 61 テニスコート
  - 62 水泳プール
  - 63 プール更衣室

- 寄宿舎
- 64 学生寮／業務支援室
  - 65 留学生寄宿舎

- その他
- 66 備蓄庫



# 第1章 基本的事項

## 1-1 主要3キャンパスの概要 (旦野原・挾間・王子)

### 挾間キャンパスマップ

医学部

- 1 管理棟 (医学・病院事務部総務課／経営戦略課  
／学務課／財務部経理課挾間調達室／施設管理課  
／保健管理センター (挾間健康相談室))
- 2 校舎講義棟 (チュートリアル教室1・2階)
- 3 基礎実習棟
- 4 看護学科棟
- 5 臨床講義棟  
(臨床中講義室1階／臨床大講義室2階)
- 6 基礎・臨床研究棟
- 7 院生研究棟
- 8 臨床研究棟
- 9 学術推進研究棟
- 10 スキルラボ・情報棟  
(スキルラボセンター／情報処理実習室)

附属病院

- 11 附属病院
- 12 医事課
- 13 看護師宿舎
- 14 卒業臨床研修センター
- 18 医学情報棟
- 32 立体駐車場
- 40 多用途型トリアージスペース棟

グローバル感染症研究センター

- 41 グローバル感染症研究センター

研究マネジメント機構

- 6・7・8 研究マネジメント機構
- 15 動物実験施設棟
- 16 RI実験施設棟

学術情報拠点

- 17 医学図書館
- 18 医療情報棟

体育施設

- 19 体育館
- 20 武道場
- 21 水泳プール (50m7コース)・附属家
- 22 弓道場

福利厚生サークル施設

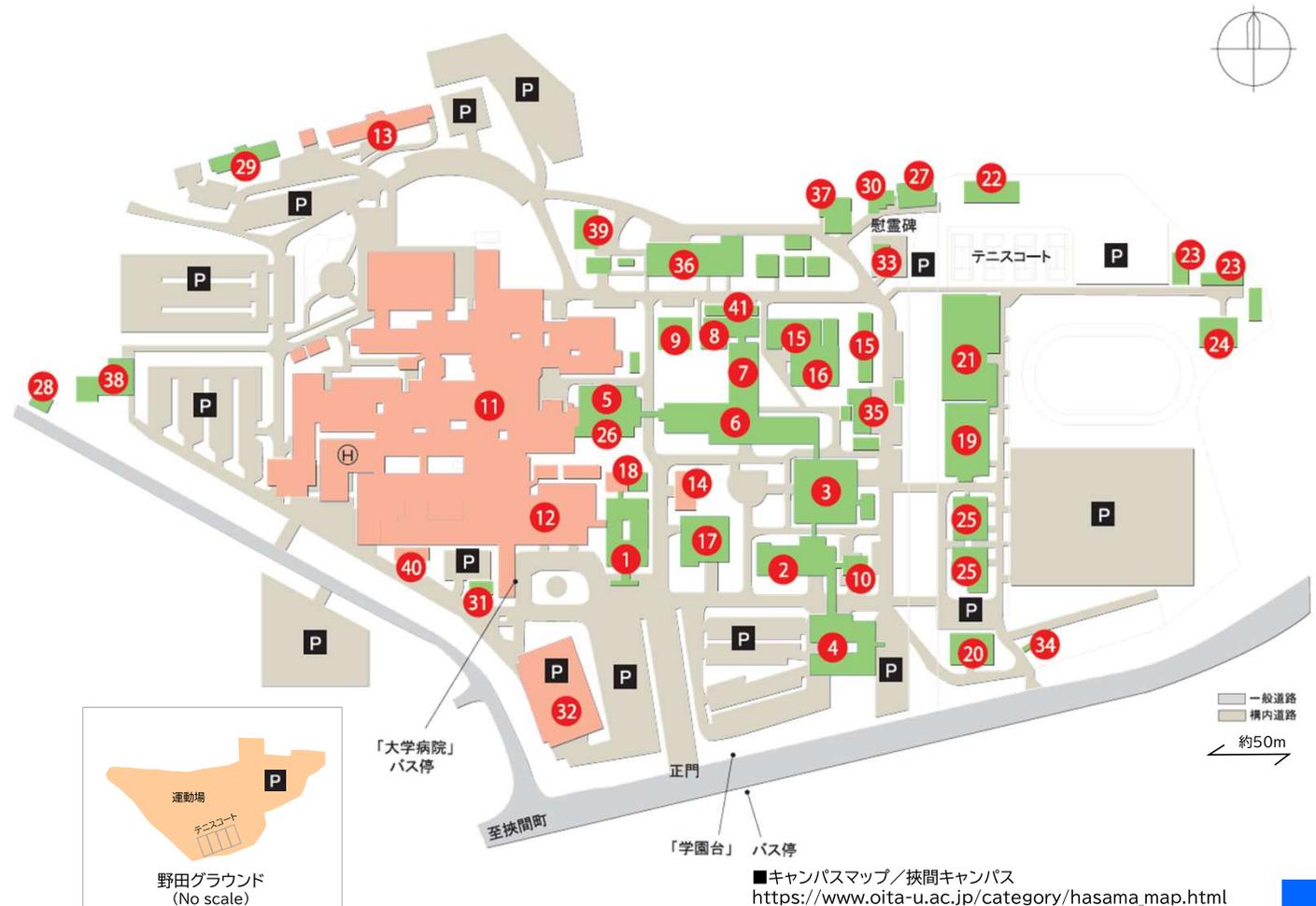
- 23 サークル施設
- 24 課外活動共用施設
- 25 福利施設 (職員・学生食堂)
- 26 福利厚生棟 (病児保育室、コンビニ、休養室)

宿泊施設

- 27 東院会館 (非常勤講師棟宿泊施設)
- 28 外国人研究員等宿泊施設
- 29 外国人留学生等宿泊施設
- 30 患者家族滞在施設

その他

- 31 郵便局
- 33 慰霊碑
- 34 動物慰霊碑
- 35 車庫
- 36 中央機械室
- 37 特別高圧受変電室
- 38 院内保育園
- 39 備蓄庫



■キャンパスマップ／挾間キャンパス  
[https://www.oita-u.ac.jp/category/hasama\\_map.html](https://www.oita-u.ac.jp/category/hasama_map.html)

# 第1章 基本的事項

## 1-1 主要3キャンパスの概要 (旦野原・挾間・王子)

### 王子キャンパスマップ

教育学部附属教育実践総合センター

- 1 教育学部附属教育実践総合センター

附属幼稚園

- 2 園舎

附属小学校

- 3 校舎
- 4 体育館

附属中学校

- 5 校舎
- 6 体育館
- 7 武道館
- 8 教生講義室棟

特別支援学校

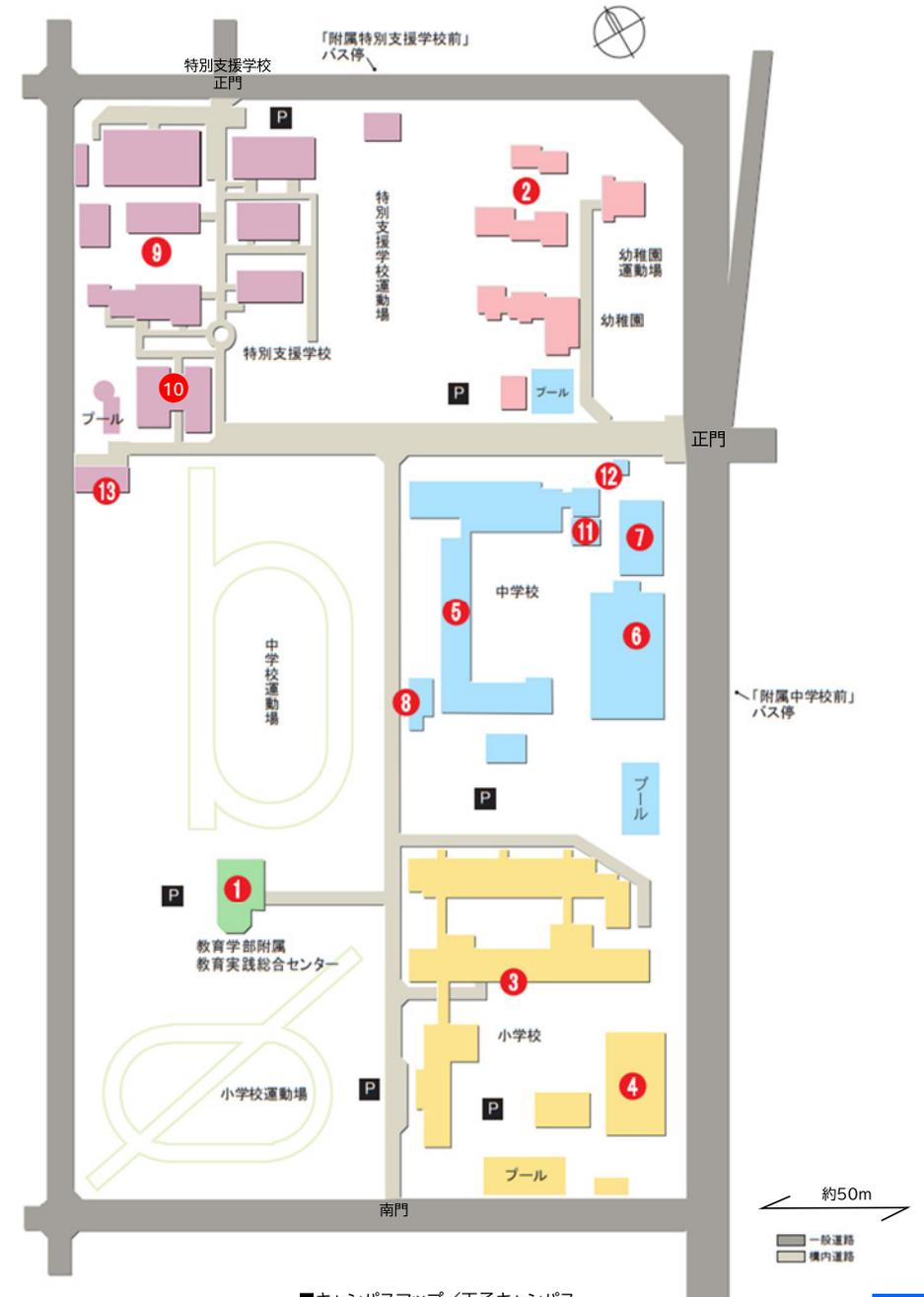
- 9 校舎
- 10 日常生活訓練施設棟

附属学校事務部

- 11 事務室
- 12 門衛所

その他

- 13 備蓄庫



# 第1章 基本的事項

## 1-2 キャンパスマスタープランの目的・位置づけ・構成

### 策定の趣旨

魅力あるキャンパスづくりを着実に進めるためには、大学を取り巻く情勢の変化や教育研究・産学連携等の大学戦略に対応し、「キャンパスのあるべき姿」であるキャンパスマスタープランを成長させていくことが重要である。今回、キャンパスマスタープラン2016の見直しとして点検及び評価を行い、より時代に合った、以下に示す新たな方針を盛り込んだ「キャンパスマスタープラン2024」を策定した。

- 「大分大学ビジョン2040」に掲げる重点項目の実現
- キャンパス全体を「イノベーション・commons（共創拠点）」への転換
- 持続可能な社会の実現に向けたイノベーション創出

### キャンパスマスタープラン2016からの変更点

- ・基本方針や整備方針・活用方針などの施設整備方針に、「大分大学ビジョン2040」、「イノベーション・commons（共創拠点）」及び「持続可能な社会の実現」などの方向性を反映し、それらの達成に向けた取組を推進する。
- ・新たな方針を反映したフレームワークプランや次期アクションプランの見直しを行った。

### キャンパスマスタープランの目的

キャンパスマスタープランは、「大分大学憲章」に掲げられた基本理念のもとに策定された「大分大学ビジョン2040」とその実現を図るための具体的な取組となる「中期目標・中期計画」の達成を施設面及び環境面から支えるために策定するものである。調和のとれた秩序あるキャンパスを全学の合意のもとに計画し、教育研究活動の基盤となり、学生にとっては学びの場、卒業生にとっては思い出の場、そして、これから学ぼうとする人たちにとっては魅力あふれる場を創っていく。

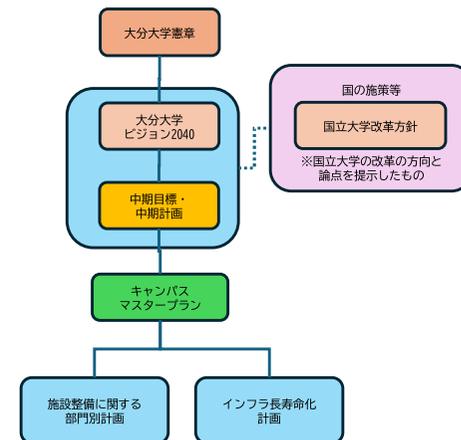
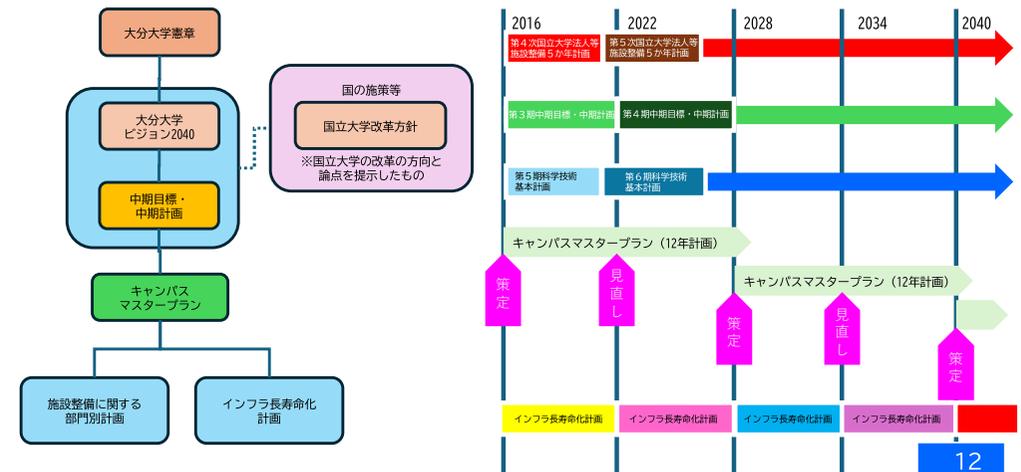
### キャンパスマスタープランの位置づけ

キャンパスマスタープランは、「大分大学ビジョン2040」及び「中期目標・中期計画」において示された中長期的な指標・目標と「国立大学改革方針」で掲げた改革を達成するための施設・環境面に係る計画と位置づけ、計画期間を12年で設定し、6年に1度見直しを行う。

細部に関する計画は、キャンパスマスタープランに則して、部門別計画及びインフラ長寿命化計画にて策定する。

### キャンパスマスタープランの構成

キャンパスマスタープランは、「基本方針・整備方針・活用方針」と「部門別画」で構成されている。「基本方針・整備方針・活用方針」は、「上位計画」を基に7つの視点から策定している。また、「部門計画」は「基本方針・整備方針・活用方針」を実現するため12の分野の視点から策定している。今後、キャンパスマスタープランの実現に向けた取組を行っていく。



chapter-1  
chapter-2  
chapter-3  
chapter-4  
chapter-5

# 第1章 基本的事項

## 1-3 大分大学のアカデミックプラン

### (1) 大学憲章

#### 前文

世界の情勢がめまぐるしく変化する現在、大学の在り方も大きな転換が求められている。

ここ大分の地は、かつて異文化交流の国際的な先進地であった。大分大学は、この進取の伝統を受け継ぎ更なる飛躍を期して、ここに基本理念と目標を定め、われらに期待されている社会的使命を果そうと決意した。

多様な経歴をもつ学生の教育においては、高い倫理観と豊かな創造力・実践力を育成するため、個々のニーズに対して効果的に機能する体制の確立が緊要な課題となっている。一方、大学で行う先端的な研究には、学問研究の自由の保障のもとに、組織として基礎と応用の均衡を図りつつ、「知」の再構築に向けて、その成果を発信することが求められる。また、地域社会・国際社会との双方向的コミュニケーションに基づく貢献と交流の積極的な推進も重要な課題となっている。これら諸課題の解決のためには、大学の組織と運営について、主体的な点検・評価を踏まえながら不断の改革を実行することが不可欠である。

大分大学は、ここに新しい組織・体制のもとで新たな出発をする。われらは、大分大学の充実と発展のために邁進し、人間味あふれる大学づくりに努めることが責務であると信ずる。

#### 大分大学の基本理念

大分大学は、人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する。

#### 教育の目標

1. 大分大学は、学生の立場にたった教育体制のもとで、広い視野と深い教養を備え、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成する。
2. 大分大学は、ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し、創造性と応用力に富んだ人材を育成する。
3. 大分大学は、高い学習意欲を持ち、たゆまぬ探求心と総合的な判断力を身につけ、広く世界で活躍できる人材を育成する。

#### 研究の目標

1. 大分大学は、創造的な研究活動によって真理を探求し、知的成果を大分の地から世界へ発信する。
2. 大分大学は、広い分野の学際的な研究課題に対して、総合大学の特性を活かし、学の融合による新たな学問分野の創造を目指す。

#### 社会貢献の目標

1. 大分大学は、地域拠点大学として、教育・研究・医療の成果を地域社会に還元することにより、地域社会との連携と共存を図り、その発展に貢献する。
2. 大分大学は、国際的な拠点大学として、広く世界に目を向けて交流を進める。特に、アジア諸国との特徴ある国際交流を推進する。

#### 運営の方針

1. 大分大学は、自主的・自律的な教育研究と管理運営のもと、活動内容の継続的な質的向上を図るとともに、情報を積極的に公開し、社会への説明責任を果すよう努める。
2. 大分大学は、社会と時代の変化に対応し得る、機能的に優れた柔軟な運営体制の構築を目指す。

# 第1章 基本的事項

## 1-3 大分大学のアカデミックプラン

### (2) 大分大学ビジョン2040

#### 序文

「大分大学ビジョン2040」は、不確実性の高い未来にあっても、惑うことなく不断の改革を推進する指針として、2015年に作成した「大分大学ビジョン2015」の達成状況を検証するとともに、今後の社会情勢・社会構造の変化を見据え、地（知）の拠点※1として、本学の果たすべき役割・未来のあるべき姿を検討し、策定しました。

2020年初頭に顕在化した新型コロナウイルス感染症は、世界中に広がりパンデミックの状態となりました。急速に進んでいたグローバル化は一転して大きな感染リスクに変わり、人々の移動は大きく制限され、サプライチェーンの見直しや輸出入の在り方、さらには金融分野に至るまで、人類は産業構造変革を余儀なくされました。このような世界経済における変化に加え、地政学的にも大きな潮流の変化が起っています。

国内に目を向けると、今後日本社会を襲うであろう多くの問題の根源は人口減少にあります。大分県での少子高齢化は、他県に先んじている形で進んでおり、2020年の大分県の出生数は8000人を下回っています。1949年の大分県の出生数が4万人を超えていたことを考えると、5分の1以下まで減少したことになります。一方、高齢化率は上がるものの、2035年頃より高齢者数も減少し、2040年※2には必要とされる医療や介護の需要も減少すると予想されています。若者も労働人口も高齢者も減少する「人口減少社会」が到来します。

このような世界や日本の変化の中で、大学統廃合の時代を見据えた連携策の検討なども含め、客観的な評価を省みながら、自ら改革していきます。本学は、学生の教育・指導に情熱を注ぎ、世界水準に比肩する研究分野を複数有し、持続可能な社会の核となる大学として、社会から厚い信頼を得ることを目指します。同時に地域のさまざまな課題の解決や持続可能な社会のあり様を提案、推進できるインテリジェンス・ハブ※3として機能を高めていきます。

以下に、私たちが今後進んでいく道筋を、教育、研究、医療・福祉、地域貢献の4つの分野に分け、全体的なビジョンを示します。

- ※1 地域の課題解決に資する人材や知識、情報、技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在。
- ※2 第二次ベビーブームに生まれた団塊ジュニア世代（1971～74年生まれ）が65～70歳になり、日本の高齢化人口が（65歳以上）がピークになることで起こりうる問題（労働力不足、社会保障費の増大等）を総称して2040年問題と呼ぶ。
- ※3 大学が地域社会の様々な情報を収集し、分析することによって地域に必要と考えられる政策を提言すること及び事業主体あるいは人材のマッチングを図ることをいう。本学の目指す機能・役割。

#### 教育

### 持続可能で多様性にあふれる社会を創生する人材を育てるための開かれた学びの創造

1. 【社会変革を創生する人材の育成】  
持続可能で多様性にあふれる社会を創生するため、教育と研究を融合した学びの場を構築し、高度な専門性と幅広い視野・科学的創造力に満ちた人材を育成します。
2. 【世界と地域をつなげるグローバル人材の育成】  
世界と地域とのつながりを深化させるため、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させた教育システムを構築し、未来型グローバル人材を育成します。
3. 【インクルーシブ社会に向けた学びの機会の提供】  
インクルーシブ社会に向けて幅広い学びの機会を提供するため、あらゆる学生が健康的で十分にその能力を発揮できる教育システムと教育環境を構築します。

#### 研究

### 世界の知をリードし、地域及び国際社会の現在及び未来の課題に応える新たな学問領域の開拓とイノベーション創出の推進

1. 【世界へ通じる研究拠点】  
変化に対して柔軟で生き生きとした社会の実現に向けて、基盤研究から先端研究に至るまで、世界に通じる特色ある研究分野を開拓し、地域及び国際社会の課題に応えるイノベーションを推進します。
2. 【分野融合・組織的な研究体制】  
研究の進化に向けて、分野融合や領域横断的に組織的な研究環境を整え、国内外の若手研究者に対して、短期から中長期までの多様な研究を支援します。
3. 【自治体・産業界との連携強化】  
社会課題を解決するための研究の推進と社会実装に向けて、産業界や国・自治体との連携を強化し、研究成果の事業化や産学連携の組織的な取り組みを促進しうる環境を整備します。

※「大分大学ビジョン2040」より抜粋

# 第1章 基本的事項

## 1-3 大分大学のアカデミックプラン

### (2) 大分大学ビジョン2040

### (3) 第4期中期目標・中期計画

#### 医療・福祉

#### 先端医療と高度な福祉支援の推進、地域への健康と福祉の提供

1. 【最先端医療の推進】  
グローバル医療の実現のために、人工知能（AI）、ロボット工学、宇宙医学等を応用した最先端医療を推進し、地域の高次医療センターとしての機能を発揮します。
2. 【感染症研究・医療の充実】  
感染症に対する治療薬やワクチンのシームレスな開発を進め、新興・再興感染症に関する研究・診療体制の強化、さらには自治体と連携した感染症疫学の実践を図ります。
3. 【地域共生社会の実現】  
ダイバーシティやインクルージョンの理念に立脚し、地域住民が安心して生活し幅広く活躍できる地域共生社会を実現するために、医療・福祉・保健、心のケアの一体的な支援システムを構築します。
4. 【医療技術イノベーションの推進】  
地域経済の活性化と医療産業の発展に貢献するため、東九州メディカルバレー構想を基盤とした産学官連携による医療技術イノベーションを推進します。

#### 地域貢献

#### 次世代に誇れる魅力的で持続可能な地域社会のデザイン

1. 【魅力溢れる地域社会の実現】  
地域社会との機能融合を進め、地域課題、時代のニーズに戦略的に対応するための「地域共創・共生連携拠点」の形成・機能強化を図ります。
2. 【クライシスマネジメント機能とレジリエンスの強化】  
安全で安心な地域社会の形成と今後起こりうる大規模で複合的なハザードに対応するために、防災・減災、感染症、災害医療などの対策・対応を機動的に連携させるクライシスマネジメント機能を有する組織を設置し、地域との連携協働のもとでクライシスマネジメント及びクライシスコミュニケーションの強化・高度化を進め、地域社会のレジリエンス強化を図ります。
3. 【広域連携と地方創生】  
広域的かつ多様な社会的課題に対応し、持続的に地方創生、地域社会の活性化に取り組むために、九州圏内における広域連携を推進します。

#### (前文) 法人の基本的な目標

第3期中期目標期間においては、大分大学憲章に掲げる豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域のニーズに対応した新学部である福祉健康科学部や健康科学研究科を開設するなど、大胆な大学改組を行った。また、附属病院の再整備も完了し、先端医療を通じて地域医療にさらに貢献できる体制が構築できた。

一方、令和2年より新型コロナウイルスの感染が拡大し、対面での教育が困難になるなど大学の根幹に関わる難局が発生した。本学においても、それらを克服するため、IoTを活用した教育システムの構築など、Society5.0に繋がる変革や、地域の自治体及び文部科学省等国の機関との連携・協力の深化が、加速度的に進んだ。また、受験生の動向でも令和3年度では、地元志向が強くなっていることが明らかとなっている。大分大学の地域への貢献は、一段と強化されなければならない。

第4期中期目標期間は、これらのことを踏まえつつ、大分大学憲章に則り、内在する課題の解決を目指すだけでなく、地域社会をはじめとした本学のステークホルダーから期待される機能の強化と、安心・安全で持続可能なキャンパス造りを実現する。

国立大学法人大分大学 第4期中期目標・中期計画より抜粋

中期目標	中期計画
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>(12) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。</p> <p>②</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>・【②-1】 研究・教育・医療・福祉・地域貢献の拠点となる「開かれた持続可能なキャンパス」を整備し、安全・安心な教育研究環境の確保のため、「戦略的リノベーション」による老朽改善を進め、昨日向上と長寿命化を実現し、保有資産を最大限に有効活用する。</p> <p>・【②-2】 保有資産を有効かつ効率的に活用するため、遊休建物を計画的に削減する。</p>

# 第1章 基本的事項

## 1-4 国立大学法人等施設整備5か年計画

### イノベーション・コモンズへの転換

文部科学省では、国立大学等の人材養成や学術研究、高度先端医療の推進等を実現するため、平成13年度から4次にわたり、国の科学技術基本計画を受け国立大学法人等施設整備5か年計画を策定し、計画的・重点的に施設整備を推進している。

第5次5か年計画（令和3年度から令和7年度）では、今後の国立大学等に対する社会の期待として、「知と人材の集積拠点として、社会の様々なステークホルダーとの連携により、創造活動を展開する【共創】の拠点となること」が示されており、国立大学等における教育研究活動が【独創】から【共創】に変化し地域・社会・世界へ一層貢献していくためには、キャンパス全体を【イノベーション・コモンズ（共創拠点）】へと転換していくことが必要とされている。

これまで戦略的リノベーション等により整備されてきたアクティブ・ラーニング・スペースやオープンラボに加え、交流の誘発、活動の可視化、フレキシビリティの確保を重視したイノベーションを生み出すための空間設備が重要とされており、その際、単体としての空間や施設だけでなく、キャンパス全体を捉え、より質の高い空間にしていくことが必要である。

また、イノベーション・コモンズの前提として、サステナブルな社会の構築のための先導的な役割を果たすことや、近年多発する災害に対しても安全に教育研究活動を継続できるよう、施設やライフラインの強靱化によりキャンパス全体のレジリエンスを確保することが必要である。

一方、国立大学等の施設は、ライフラインも含めた施設の老朽化が深刻な状況となっており、イノベーション・コモンズの実現に向け効果的・効率的に施設整備を進めるためには、新增築は抑制しつつ既に保有している施設を最大限活用することが重要である。

令和5年10月には、文部科学省にて国立大学等キャンパス・施設の在り方について有識者会議で議論を重ね、「我が国の未来の成長を見据えた「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の更なる展開に向けて」が取りまとめられ、公表された。

取りまとめには、キャンパスの・施設の共創拠点化に向け、デジタル技術を駆使したハイブリッド型環境の整備の必要性が示されている。具体的に、DX・GX等の成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備や地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備等があげられている。

本学においても、上記取りまとめを踏まえ、Society5.0の実現に向け、社会課題や時代の変化に対応しつつ、多様なステークホルダーとの共創を推進し、地域の強みや特徴を生かしたキャンパス・施設整備に積極的に取り組んでいく。

### 第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3～7年度） （令和3年3月 文部科学大臣決定）

#### 基本的な考え方

##### ▶国立大学等に求められる役割

- 国立大学等の本来の役割である「教育研究の機能強化」と「地域・社会・世界への貢献」
- 社会の様々な人々との連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点
- 多様なステークホルダーと積極的に関わり合い、新たな活動が新たな投資を呼び込むことで成長し続ける真の経営体

##### ▶施設整備の方向性

キャンパス全体を **イノベーション・コモンズ（共創拠点）** へ



##### <イノベーション・コモンズ実現に向けた今後の取組>

- ・ 国立大学等施設は全国的に配置された我が国最大の知的インフラであり、最大限活用
- ・ また、DXの加速化をはじめ、社会情勢の変化に速やかに対応
- ・ 効率的な施設整備により老朽改善整備の加速化とともに新たなニーズに対応した機能強化を図る
- ・ ポストコロナ社会も見据えたオンラインと対面の双方のメリッティをいかに効果的なハイブリッド、国土強靱化やカーボンニュートラルに向けた取組や、バリアフリーなども含めダイバーシティに配慮した施設整備を推進
- ・ あわせて、施設マネジメントの取組と多様な財源の活用を一層推進

文部科学省

【第5次国立大学法人等施設整備5か年計画】より引用

### 我が国の未来の成長を見据えた「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の更なる展開に向けて （令和5年10月 国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議）

【イノベーション・コモンズ（共創拠点）】の実現に向けて（令和4年10月）の経緯と、有識者会議（主催：高野聖太郎 大隈大教授）において、新たに、あらゆる活動に共通する事項として、「デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備」及びその事項として、「デジタルやオンライン等の成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備、地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備、3多様な主体が連携する環境整備、オープン・イノベーションの推進等」について更なる取組を行い、取組を推進する取組の考え方を掲げ、今後の取組を定めていくこととなった。

これからの大学等に求められる対応

- 国立大学等キャンパス・施設は、我が国の産業競争力と学術研究の水準の向上、発展を促すための「国家的資産・宝庫」であるべきであり、**地域の強みや特徴を生かした**。
- 国立大学等キャンパス・施設は、我が国の産業競争力と学術研究の水準の向上、発展を促すための「国家的資産・宝庫」であるべきであり、**地域の強みや特徴を生かした**。
- 国立大学等キャンパス・施設は、我が国の産業競争力と学術研究の水準の向上、発展を促すための「国家的資産・宝庫」であるべきであり、**地域の強みや特徴を生かした**。

共創拠点の更なる展開に向けたキャンパス・施設等の整備の考え方、取組のポイント

- 共創拠点は、ソフト・ハードの両面が一体となり、大学等のキャンパス全体が有機的に連携して多様なステークホルダーによる共創活動を展開する場であり、**独創拠点の社会的必要性**。
- 我が国の成長けんけんする人材育成やイノベーションの推進に向けには、**キャンパス全体が有機的に連携して多様なステークホルダーによる共創活動を展開する場であり、独創拠点の社会的必要性**。
- 大学等を取り巻く状況の変化に対応して、**キャンパス全体が有機的に連携して多様なステークホルダーによる共創活動を展開する場であり、独創拠点の社会的必要性**。

【共通】デジタル技術も駆使したハイブリッド型環境の整備

- ① 成長分野等の社会課題に対応した人材育成・研究を支える環境整備
- ② 地域を中心とした産学官連携強化による人材育成を支える環境整備
- ③ 多様な主体が連携した共創拠点の整備
- ④ グローバル化に対応した国際競争力のある環境整備

今後の取組

- 国は、野郎のより一層の整備・改善や機能強化の推進、多様な財源の活用に向けた取組の推進に取り組むことが重要。
- 国立大学法人等は、我が国の成長けんけんする人材育成やイノベーションの推進に向けには、**キャンパス全体が有機的に連携して多様なステークホルダーによる共創活動を展開する場であり、独創拠点の社会的必要性**。
- 地方公共団体・産業界は、共創拠点の推進に向けた取組の推進、**地域・社会・世界への貢献**。

文部科学省

【我が国の未来の成長を見据えた「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の更なる展開に向けて】より引用

# 第1章 基本的事項

## 1-5 大分大学の施設整備方針

### (1) キャンパス整備の基本方針・整備方針・活用方針

#### 施設整備の方向性

#### ◆ キャンパス全体をイノベーション・commons（共創拠点）へ ◆



DXを活用した  
新たな知の創造



サイバー空間・  
フィジカル空間の  
融合による  
新たな価値の創出



スマートシティを  
目指した実証実験



世界をリードする  
最先端研究



日常的な知的交流や  
人間関係の形成



テクノロジー×地域資源  
による地方創生



ニューノーマル時代  
の国際交流

### 基本方針

アカデミックプランの実現を目指し、キャンパスを「イノベーション・commons」へ転換するための柱となる考え方。

#### 1. 社会変革を創生する人材の創造

#### 2. 国際性豊かな教育を展開

#### 3. 世界へ通じる研究拠点の形成

#### 4. 産学官連携を強化し、 新たなイノベーションを創出

#### 5. 社会に貢献する 開かれた地域拠点の形成

#### 6. 持続可能な社会を先導

#### 7. 魅力的で 安全・安心なキャンパスの提供

### 整備・活用方針

基本方針に基づき、重点的に取り組む施設整備（整備と活用）の方向性を示す。

◎ グローカル人材育成のための教育環境の整備と充実

- ◎ 世界と大学、地域を結ぶキャンパス整備
- ◎ 教育環境を活性化する国際交流の場の整備
- ◎ 留学生の受け入れ環境の整備と体制の充実

- ◎ 高度な研究を行うための研究環境の整備と充実
- ◎ 異分野の研究者の交流等、双方向コミュニケーションを意識した環境整備

- ◎ 地域産業活性化のための環境の整備
- ◎ 共同研究や受託研究を行うための環境の整備

◎ 多様なステークホルダーとの共創拠点（社会実装の場）の創出

- ◎ 地域の中核病院としての環境の整備と充実
- ◎ 低侵襲で高度な先端医療の推進

- ◎ 創エネルギー、再生可能エネルギーに配慮した整備（GXの推進）
- ◎ 省エネルギーに配慮した整備

- ◎ キャンパスライフを快適で充実させる施設整備（学生の交流や地域に開かれたキャンパス整備）
- ◎ アカデミック環境の充実（DXの推進）
- ◎ キャンパスとしてのシンボルの形成
- ◎ 施設、建物設備、インフラストラクチャーの老朽解消
- ◎ ユニバーサルデザイン（ダイバーシティキャンパス）の整備と充実
- ◎ 緑地・自然環境の適切な管理と維持保全
- ◎ 防犯対策の強化
- ◎ 保有施設の有効活用、資産活用の見直し

chapter-1  
chapter-2  
chapter-3  
chapter-4  
chapter-5

# 第1章 基本的事項

## 1-5 大分大学の施設整備方針

### (2) 施設マネジメントの基本方針

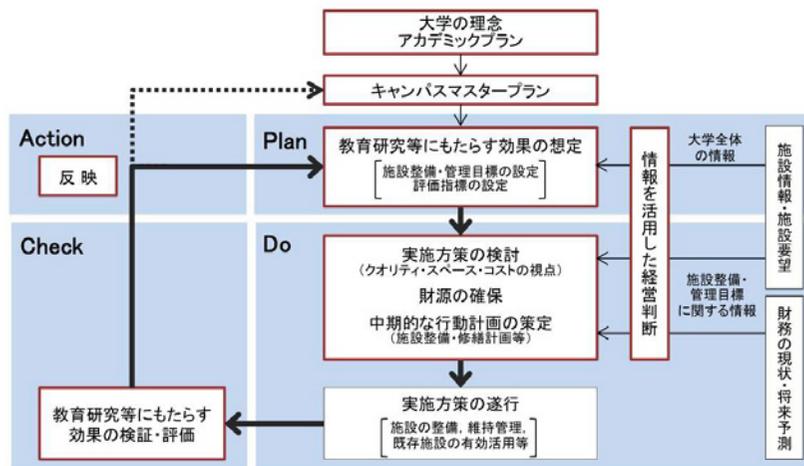
施設（建物・ライフライン・屋外環境等）は大学の経営資源の一つであり、共有の財産であることから、利用者の既得権を前提とせず、トップマネジメントのもと大学構成員皆で有効に活用していくものである。

施設マネジメントは、大学の理念やアカデミックプランの実現を目的とし、最小限の投資により最大限の効果をあげることができるよう、戦略的な運営が必要である。また、PDCAサイクル（図1）を確立し、取組を継続的に改善し、教育研究環境の持続的向上を図る仕組みを構築することが重要である。

施設マネジメントをトップマネジメントの一環として全学的体制で進めるため、本学では施設整備委員会を設置しており、キャンパス全体について総合的・長期的視点から教育研究活動に対応した適切な施設を確保・活用することを目的として、教育研究や経営戦略との整合性を図りながら実施している。

### 実施方針の検討

施設マネジメントの実施に当たっては、施設のクオリティ・スペース・コストの3つの視点から総合的なバランスを図りつつ、施設に係る目標値を含めた実施方針を検討することが重要である。



平成27年3月国立大学等施設の総合的なマネジメントに関する検討会  
「大学経営に求められる施設戦略～施設マネジメントが教育研究基盤を強化する～」より引用

図1. 持続的な施設マネジメントのPDCAサイクル

### (1) クオリティマネジメント

高度化・多様化する教育研究に対応する機能性、防災・事故防止等の安全性、施設利用者の快適性・利便性を確保し、個性的で魅力あるキャンパスづくりを進めるとともに、施設の長寿命化、省エネルギー・省資源に配慮した施設水準の向上を図る。

- ① **魅力あるキャンパスづくり**
  - ・必要かつ十分な機能を備えた質の高い教育研究環境の確保とともに、学生・教職員の生活・交流等に関する機能の向上・充実を図る。
  - ・学内外の多様な施設利用者の要望に配慮しつつ、利便性、快適性に配慮する。
  - ・大学の歴史と伝統を継承し未来へつながる個性的で魅力あるキャンパスの景観を形成するため、施設群としての調和に配慮した外観デザインや屋外環境の適切な整備・保全を行う。
- ② **適切な維持管理**
  - ・教育研究環境を良好に保ち施設利用者が快適に安心して施設を利用するため、施設の劣化・損傷に対応する修繕、設備機器の点検保守等の維持管理を適切に実施する。
- ③ **地球環境への配慮**
  - ・環境への負荷が少なく持続的発展が可能なキャンパスの形成に取り組むため、安定的、継続的な教育研究活動に配慮しつつ、省エネルギーに資する取組を行う。

### (2) スペースマネジメント

学生・教職員によるスペースの必要以上の専有や既得権意識を排除して全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえながら、既存スペースを適切に配分し、施設の有効活用を積極的に行う。教育研究活動の新たな展開等により生じる施設需要に対応する必要がある場合においても、まずは、既存施設の活用を十分に検討する。施設の新増築はその後の施設管理に管理に係るコストの増大につながることを認識し、保有施設の総量の最適化を図る。

- ① **利用効率の向上**
  - ・施設の利用状況を踏まえた同種の用途や同様の機能を有するスペースの配置の適正化と集約化により、利用効率の向上を図る。
  - ・収容人員や設備内容等の情報公開により利用者の利便性向上を図り、講義室や会議室の部局の枠を超えた活用を進める。空き時間等には、学生の自律的学修の場や地域貢献の場として活用する。

# 第1章 基本的事項

## 1-5 大分大学の施設整備方針

### (2) 施設マネジメントの基本方針

#### ② 共同利用スペース等の確保

- ・研究内容や利用者を特定しないスペースを確保し、利用率の向上を図るために単一の部局ではなく全学的または複数部局の連携により運営する。
- ・大学の理念実現に向けて戦略的・重点的に進めている教育研究等の取組に対して、トップマネジメントによる戦略的・重点的なスペース配分を可能とするような、本部で管理するスペースを確保する。

#### ③ 学外施設等の活用

- ・自己保有だけでなく、地域や他大学との連携を含めた学外施設等の活用についても検討を行う。

### (3) コストマネジメント

国立大学等における施設に係る支出（新增改築費、改修費、維持管理費及び光熱水費）の増減が大学の財務経営に与える影響は少なくない。施設のクオリティの確保やスペースの活用に係るコストについては、費用対効果の向上や保有施設全体のライフサイクルコストの効率化を踏まえて必要額を検討し、戦略的に財源確保・管理する。

#### ① 財源の確保

- ・必要な財源を戦略的に確保するため、国に財源を求めるものと自己財源等により行うものを整理し、基本的な方針を定めた上で、具体的な方策を検討する。
- ・国に施設費要求が必要と判断する事業は、経営者層の判断のもと、他部課の支援・連携も得ながら、事業の必要性、有効性を明確にし、早期事業化に努める。
- ・部局が使用する教育研究施設等の面積に対して、スペースチャージの検討する。
- ・多様な財源を確保するため、PPP・PFI事業、国の補助制度、地方公共団体や企業との連携による整備等の活用を検討する。

#### ② 維持管理費等のコスト縮小

- ・予防保全の観点に基づき、修繕の実施時期や必要経費を定めた長期の修繕計画を策定し、計画的、定常的に修繕を実施し、トータルコストの削減と毎年のコストの平準化を図る。
- ・保全費について、役務の一元化や維持管理契約の複数年度化等の見直しを行うことにより、維持管理の質を確保しつつ、費用の削減を図る。
- ・学部学科や研究室等の単位でエネルギー使用量及びその料金を学内に共有し、実態の見える化することで、エネルギー使用量を全学的に管理し、目標値を設定して費用の抑制を図る。

### クオリティマネジメントに関する取組

本学では学生、教職員、地域の人々など大学を利用するあらゆる立場の人が、より快適で安心して施設を利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を行う。

また、通信環境の整備や老朽化建物の計画的な改修による機能強化を行い、教育研究の質の確保及び向上に取組む。

### スペースマネジメントに関する取組

施設の利用状況を踏まえ、学部等の占有意識・既得権益利用に関する意識改革を進め、学部の枠を超えた共有利用スペースを確保し、全学的な利用や共同利用へ転換する。

また、施設の質を確保するため、平成27年度より開始したスペースチャージ制度を発展させ、スペース・クオリティ・コストの3マネジメントが一体となった施設マネジメントを進める。

### コストマネジメントに関する取組

本学は、膨大な施設の効果的かつ効率的な施設整備・維持を目指し、2020年度にインフラ長寿命計画（行動計画・個別施設計画）を策定しており、財政負担の縮減及び平準化に取り組んでいるが、現時点では十分な予算が確保できていない。

これまでに学長直轄スペースによるスペースチャージ制度を導入し、新たな財源の確保に取り組んできた。

今後も限りある財源の中で、快適・安心な施設の利用を維持していくため、スペースチャージの拡充やネーミングライツ等の新たな財源の確保をさら加速していくことが喫緊の課題である。



パウダールーム（ビクトグラム）



図書館のラーニング commons スペース



パウダールーム（内部）



図書館のラーニング commons スペース

# 第1章 基本的事項

## 1-5 大分大学の施設整備方針

### (2) 施設マネジメントの基本方針

#### 施設マネジメントの体制

キャンパスマスタープラン実現のため、下記のように組織体制を構築し、施設マネジメントを効率的かつ確実に実施するため、施設マネジメントのPDCAサイクルを実行する。

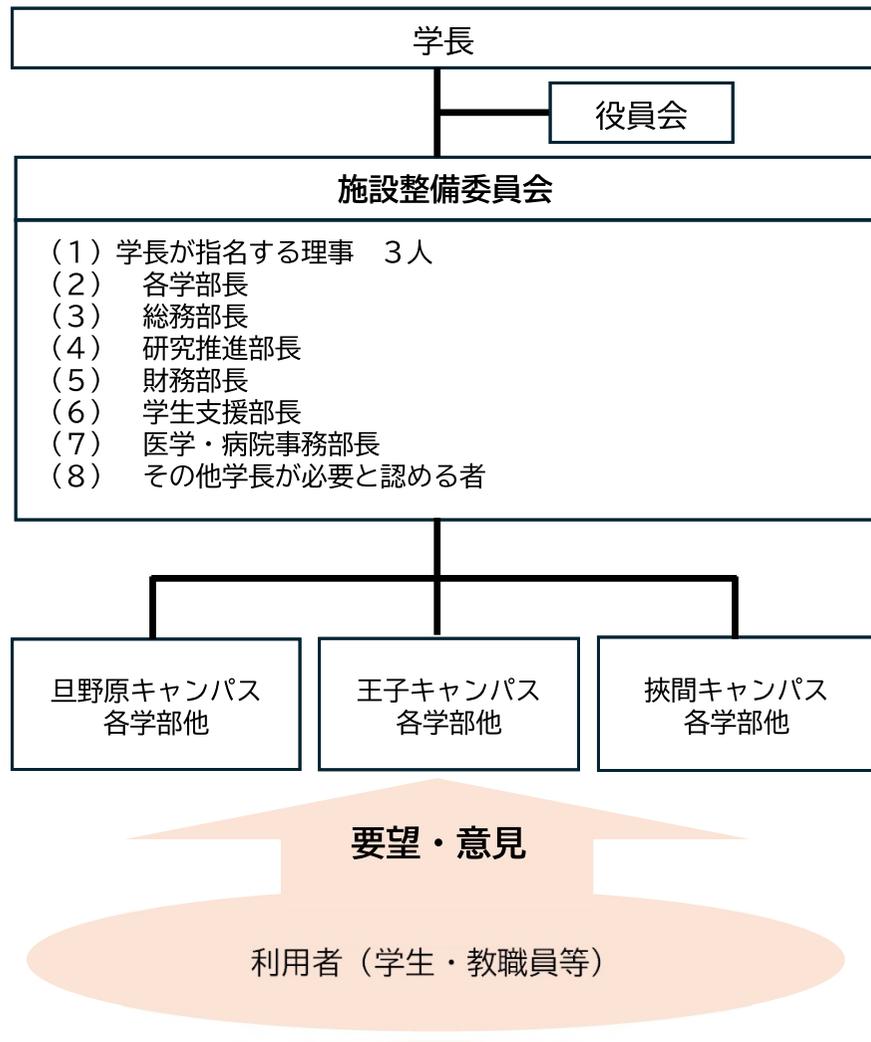


図1. 施設マネジメントの組織体制

#### 【 審議事項 】

- (1) 施設整備計画に関する事項
- (2) 施設のマネジメントに関する事項
- (3) 施設の点検・評価及び改善に関する事項
- (4) その他法人の施設整備に関し必要な事項

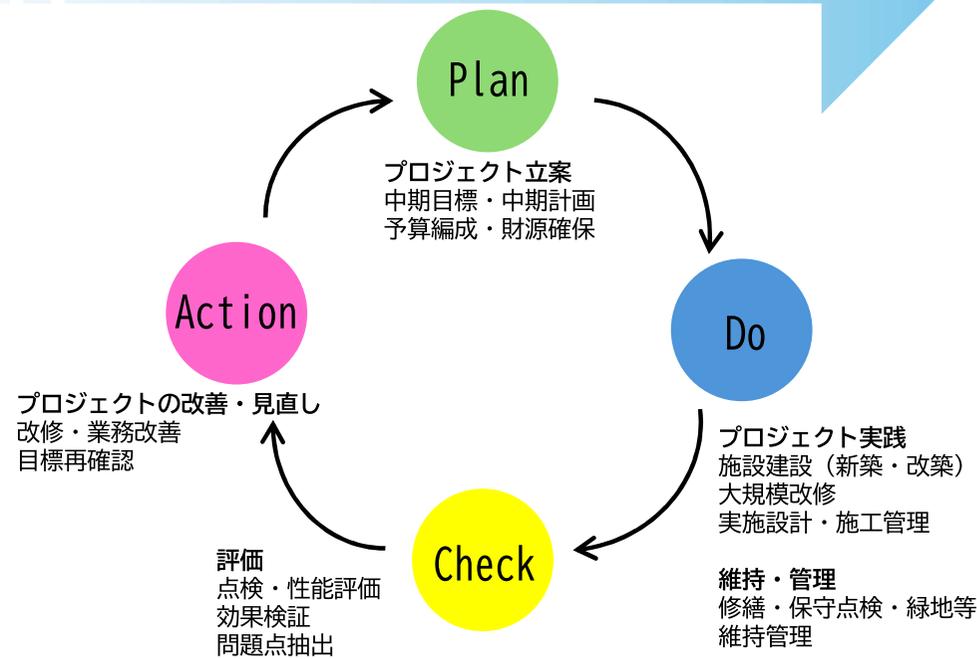


図2. 施設マネジメントのPDCAサイクル

# 第1章 基本的事項

## 1-6 【これまでの成果】キャンパスマスタープラン2016

### 教育・研究機能の強化

(巨野原キャンパス) 福祉健康科学部エリアに位置する複数の施設改修により、平成28年に新設された福祉健康科学部に必要な諸室を確保し、教育・研究機能を強化した。



福祉健康科学部実習棟 (外観)



福祉健康科学部実習棟  
(共有スペース)



福祉健康科学部実習棟  
(実習室)

(挾間キャンパス) 基礎・臨床研究棟や動物・RI 実験施設、感染動物実験施設改修により最先端な医療研究や感染症の研究に必要な施設を整備し、教育・研究機能を強化した。



基礎・臨床研究棟 (西側外観)



動物RI実験施設棟



感染動物実験施設 (外観)

(王子キャンパス) 特別支援学校肢体訓練施設、附小管理特別教室棟の老朽化改修を行い、児童生徒他利用者の安全安心を確保し、教育・研究機能を強化した。



肢体訓練施設



附小管理特別教室棟

### 地域貢献の推進及び産学官連携の強化

(挾間キャンパス) 附属病院再整備、トリアージ施設新築、挾間キャンパス出入口道路の複線化整備により、地域貢献の推進を行った。



附属病院再整備事業



多用途型トリアージスペース棟 (外観)



挾間キャンパス出入口複線化 (4車線) による  
周辺道路の渋滞緩和 (2023年完成)

### イノベーション創出拠点の形成

(巨野原キャンパス) デジタル社会におけるリーダーとして新しい付加価値の創造を主導できるDX人材を養成することを目的とし、福利施設食堂棟の旧食堂エリアを改修した。(2025年完成)



高度情報人材育成交流会館 B-Core



B-Core 高度情報人材育成共創エリア

# 第1章 基本的事項

## 1-6 【これまでの成果】キャンパスマスタープラン2016

### 福利施設の充実

(旦野原キャンパス) 学生交流会館 *B-Forêt* およびコンビニエンスストアを整備することにより、福利施設の充実を図り、多くの学生が集う拠点ができた。この拠点周辺の共用ゾーンを拡大していくことで、人の動線を広げる環境づくりを行い、イノベーション・commonsへの転換や魅力的なキャンパスの貢献に繋げていきたい。



学生交流会館 *B-Forêt* (外観)



学生交流会館 *B-Forêt* (館内)



学生交流会館 *B-Forêt* (トイレ)



コンビニエンスストア (外観)



コンビニエンスストア (看板) 民間企業の誘致  
大分大学のロゴ

### 環境問題への対応

(主要3キャンパス) エネルギー効率の高い照明器具及び空気調和設備への更新や断熱性能の高い複層ガラスを採用することで、省エネルギー化を推進した。



LED 照明器具



空気調和設備

### ユニバーサルデザインの施設整備

(旦野原キャンパス) ユニバーサルデザインに配慮し、バリアフリースロープの新設や車椅子利用者の専用駐車場の増設、そして多目的トイレやパウダールームの整備を行った。今後も様々な人が利用しやすいキャンパス整備を目指していく。



バリアフリースロープ全景 (福祉健康科学部周辺)



増設した車椅子利用者用の専用駐車場 (教養教育南側)



パウダールーム内 (理工第1講義棟)



多目的トイレ整備 (福祉健康科学部)

### その他キャンパス整備 (公園緑地化)

(旦野原キャンパス) 学生等が憩う集いの広場として、下記緑地公園化整備を行った。これからも人々が憩う空間をつくることで、魅力あるキャンパスづくりに繋げていく。



学生交流会館 *B-Forêt* 前緑地化



経済学部緑地公園整備

## 第2章 主要3キャンパス共通計画(旦野原・挾間・王子)

### 2-1 サステナブルキャンパス計画

◎地球環境への配慮が環境負荷の大きな企業や大学・高等教育機関に求められている中、大分大学は地域の環境形成のモデルとなるべく、サステナブルキャンパス構築へ向けて更なる取組を行っている。

#### 省エネルギー・啓発活動・環境配慮計画

省エネルギーに向けた取組として、エネルギー使用量削減目標を設定するとともに、使用実績を学内ホームページ等や環境報告書で公表しエネルギー節減に向けた意識の啓発を図っている。

また、環境配慮計画を策定しており、工事等に併い以下の取組を行っている。

**断熱**：屋根・床・壁等の断熱化。断熱効果の高い窓ガラスの採用。

**照明**：自然採光を活用。高効率な機器の採用。照度に応じた点滅や調光を行うシステムの採用。

**空調**：自然通風を活用。高効率な機器の採用。

**その他**：消費エネルギーを監視する設備システム・運転管理システムの採用。

今後は更なる取組を実施し、エネルギー消費抑制を図る。



環境報告書2024



運転監視システム

環境負荷削減のため、定期的に省エネルギー推進委員会を開催し、省エネルギーの推進を図っている。

また、日頃の省エネルギー対策の一環として、「省エネルギーマニュアル」や「省エネポスター」を作成し、教職員や各部局へ定期的に周知を行い、節電意識を高める取り組みを行っている。



省エネルギーマニュアル

省エネルギーポスター

#### 無煙キャンパスへの取組

本学では「禁煙週間（「世界禁煙デー」に始まる一週間）」を設け、教職員等への啓発活動を行っており、無煙環境構築を推進している。2015年から本学学生を対象に当期間のデザインを公募し、採用作品によるクリアファイルとのぼりを作成しており、クリアファイルは、学生・教職員へ配布を行っている。2019年には「禁煙について考える」と題し公開講座を開催し、地域社会への啓発活動も行った。取組の結果、学生の喫煙率の改善もみられており、引き続き無煙環境構築ならびに喫煙習慣の意識改革を推進していく。



学生デザインによるクリアファイル



キャンパスの各所に設置されたのぼり



構内・外回り巡視

#### GX実現に向けた研究

本学では、2024年4月に「先端技術・GX研究センター」を設置し、カーボンニュートラル・省エネルギー・省資源等の研究分野を重点的・中長期的に取り組む体制を構築し、強みでもある次世代燃料・エネルギーの高度利用技術などの研究を基礎として、GX実現に向けた研究を推進している。

GXとは「グリーントランスフォーメーション（Green Transformation）」の略で、化石燃料（石炭や石油など）をできるだけ使わず、二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーに転換するための諸活動のことを指す。

GX実現に向けた取組は大学としての責務でもあり、学内外と連携し、持続可能な社会への貢献とそのための人材育成を継続して進めていく。

@大分大学理工学部 先端技術・GX研究センター  
<https://www.gx.oita-u.ac.jp/>



## 第2章 主要3キャンパス共通計画(旦野原・挾間・王子)

### 2-2 ユニバーサルデザイン計画・災害対策

◎ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を計画し、多様な人々が利用しやすいダイバーシティキャンパスを目指す。

※ユニバーサルデザイン：国籍、民族、人種、性別、年齢、障がいの有無に関わらず、多様な人々が利用しやすいデザインをする考え方。

#### ユニバーサルデザインの施設整備

建物を新築及び改修するにあたり、出入口の自動ドア、スロープ、手摺、多目的トイレ、エレベーターを代表とした多様な人々が利用しやすい整備を計画する。車椅子使用者等が利用する駐車場は、建物出入口近くにわかりやすく安全な位置に確保したり、サインはピクトグラムの使用や、言語、文字の大きさ、色、掲示高さ、点字表示に配慮する。

屋外環境では、利用者の動線上に車両動線が交わらないよう配慮し、段差等の車イス使用者や視覚障がい者の障壁となるものをなくした計画とする。



出入口の自動ドア



スロープ、手摺



多目的トイレ



車椅子使用者等が利用する駐車場

◎大規模災害が発生した場合、キャンパスが避難できる場所として使えるように施設整備を計画する。

#### 災害対策の施設整備

主要3キャンパスにおいては、災害時の避難場所を確保しており、避難指示が発令された際にスムーズに活用できるようにするために、施設の維持管理を行っていく。

旦野原キャンパスにおいては、災害時に必要最低限の電源を確保できるよう、自家発電設備を設置し、災害対応や教育研究活動を継続できる体制を整備する。

挾間キャンパスにおいては、大分大学挾間キャンパス事業継続計画（BCP）に基づき災害対応・事業継続を行い、地域医療における役割を果たし、さらには教育研究活動を継続できる体制を整備する。

なお、附属病院は、大分県の基幹災害拠点病院、地域災害拠点病院に指定されており、病院機能維持のため、自家発電設備、無停電電源装置、地下水活用システム等を設置し、災害時に対応できるよう備えている。

王子キャンパスにおいては、災害対応（インフラストラクチャー整備等）や教育を継続できる体制を整備する。

避難場所	
<b>【旦野原キャンパス】</b>	①陸上競技場 ②ラグビー場 ③野球場
<b>【挾間キャンパス】</b>	①外来ホール ②臨床講義棟 ③体育館 ④各駐車場 ⑤グラウンド
<b>【王子キャンパス】</b>	各校園運動場・園庭
※津波発生時 附属中学校E棟屋上 附属小学校北校舎屋上	

#### 旦野原キャンパス



備蓄庫



災害用トイレ

#### 王子キャンパス



備蓄庫

#### 挾間キャンパス



自家発電設備



無停電電源装置



地下水活用システム

## 第2章 主要3キャンパス共通計画(旦野原・挾間・王子)

### 2-3 サイン計画

◎学生、生徒及び教職員のみならず、様々な来訪者にも配慮したサインを計画する。今後詳細な計画については、ワーキンググループを設置し審議を行い決定していく。

#### サインの現状

主要3キャンパスのサインの現状として以下のものがある。

- ・サインの大きさ、形、色彩等に統一性が無い。
- ・表現方法が統一されていない。
- ・樹木に覆われサインとして機能していないものがある。
- ・劣化したサインがある。



案内サイン (旦野原キャンパス) 1



案内サイン (旦野原キャンパス) 2



案内サイン (挾間キャンパス)



施設名称サイン (旦野原キャンパス) 1



施設名称サイン (旦野原キャンパス) 2



施設名称サイン (挾間キャンパス)



樹木に覆われたサイン (旦野原キャンパス)



老朽化した案内サイン (旦野原キャンパス)

#### サインの基本方針

サインの基本方針は以下のとおりとする。

##### ◎サインデザインの統一

- ・フォントを統一する。
- ・視距離による文字サイズを設定する。

##### ◎表現方法の統一

- ・棟名称、棟番号等の表記を統一する。

##### ◎サイン設置位置の最適化

- ・乱立を防ぐため適切な設置位置と表示方法を検討する。  
(キャンパスマップ・行先案内サイン・施設名称サイン)

##### ◎ユニバーサルデザイン (ダイバーシティ)

- ・多言語表記を行う。
- ・すべての利用者が認識できるピクトグラムの採用。
- ・色覚に留意した色の組合せとする。
- ・車椅子使用者に配慮した掲示高さとする。

##### ◎メンテナンスのしやすい構造・仕様

- ・耐久性の高い統一素材の採用。

## 第2章 主要3キャンパス共通計画(旦野原・挾間・王子)

### 2-4 緑地維持保全計画

#### 主要3キャンパスの緑地維持保全計画の基本方針

旦野原キャンパス、挾間キャンパスには広大な緑地が残されており、そこは学生や教員の自然や環境などについて学ぶ教材として重要な役割を果たしている。

緑地には大気や水質の浄化機能、自然災害の防止・軽減機能、生物多様性の保全機能など様々な機能（生態系サービス）が備わっている。

これからのキャンパスは緑地を学習の場としてだけでなく、憩いの場や環境保全の場、生物多様性の保全の場としても捉え、そのための適切な管理方法を計画・実施し、自然環境と共生したキャンパスづくりを目指す。

#### 管理方法

緑地の分類を活用・保全目的によって3つに分類する。

##### ●学生・生徒・児童・園児生活ゾーン

教育研究環境に支障がなく、利用者の憩いの場等としての機能が維持できるよう管理を行う。

また、グリーンインフラストラクチャー※の観点でも検討を行い、緑地率の最適化を図る。

##### ●バッファゾーン

学生・生徒・児童・園児生活ゾーンと生物多様性保全ゾーンの干渉帯としての役割をもつ。定期的な点検及び必要な手入れを行う。建物やインフラストラクチャー等に影響を与えそうなものは適切な対処を行うが、大規模な植生の改変や工事等は極力行わない。

##### ●生物多様性保全ゾーン

環境保全機能や生物多様性保全機能を損なわない管理を行う。人工物の建造や大幅な現状改変を行わない。

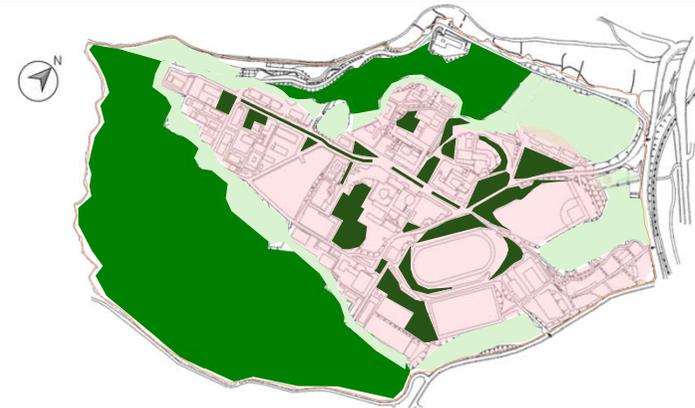
また、竹林化が進んでいくことにより、環境破壊につながらないように管理を行う。

#### 他地域の生物の持ち込みの禁止

キャンパス内の在来生物の遺伝子攪乱を防ぐため、植栽を行う場合は他地域の生物を極力使用しないこととする。

#### 生物多様性オフセットの実施

生物多様性ゾーンを開発する際、開発による生物多様性への影響を最小限に抑えるように努める。ただし、やむを得ず開発する場合、代替の生物多様性ゾーンを整備することで、キャンパス全体の生物多様性の影響を代償（オフセット）する。



旦野原キャンパス



挾間キャンパス



王子キャンパス

#### 凡例

学生・生徒・児童・園児生活ゾーン	
バッファゾーン	
生物多様性保全ゾーン	
学生・生徒・児童・園児生活ゾーン内の緑地帯	

※グリーンインフラストラクチャーは、自然が持っている機能や仕組みを社会資本に活用することで、自然生物や災害対策、地球温暖化における対応などに取り組む考え方。

## 第2章 主要3キャンパス共通計画(旦野原・挾間・王子)

### 2-5 施設維持管理計画

### 2-6 施設有効利用計画

◎教育研究環境を良好に保ち、施設利用者が快適に安心して施設を利用するために、保有する施設を健全に維持していく必要性があり、適切な維持管理、修繕及び改修を計画・実施し、施設の長寿命化へ向けて更なる取り組みを行う。

#### 施設パトロールの実施

建物共用部分及び屋外環境について、施設担当職員と各部局担当職員が年1回施設パトロールを実施している。緊急に修繕を要するものについては、即時対応している。パトロール結果は施設整備委員会において報告を行っている。また、修繕計画に反映することにより次年度以降の財源確保の基礎資料としている。



外壁打診確認



屋上防水状態確認

#### 専門業者による保守点検

エレベーター設備や受変電設備等、特殊なものについては点検専門業者に委託し、定期的に保守点検を行っている。



エレベーター設備の点検の様子



受変電設備の点検の様子

◎稼働率の低い部屋の利用形態を見直し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえながら、既存スペースを適切に配分し、施設の有効利用を積極的に行う。

#### 有効利用調査の実施

「国立大学法人大分大学施設有効利用に関する規程」に基づき、1年に1度施設の有効利用調査を実施している。

また、退職者等で引継ぎのあった部屋については、毎年調査を実施し施設利用状況を把握し、効果的運用を行っている。



退居時の現地確認の様子

#### 共同利用スペースの確保

「国立大学法人大分大学施設有効利用に関する規程」に基づき、校舎の大規模改修等を行う場合はスペースの再構築により教育及び研究の活性化とスペースの有効利用を図るため、共用スペースの創出に努めている。



学生ラウンジ（高度情報人材育成交流会館 B-Core）

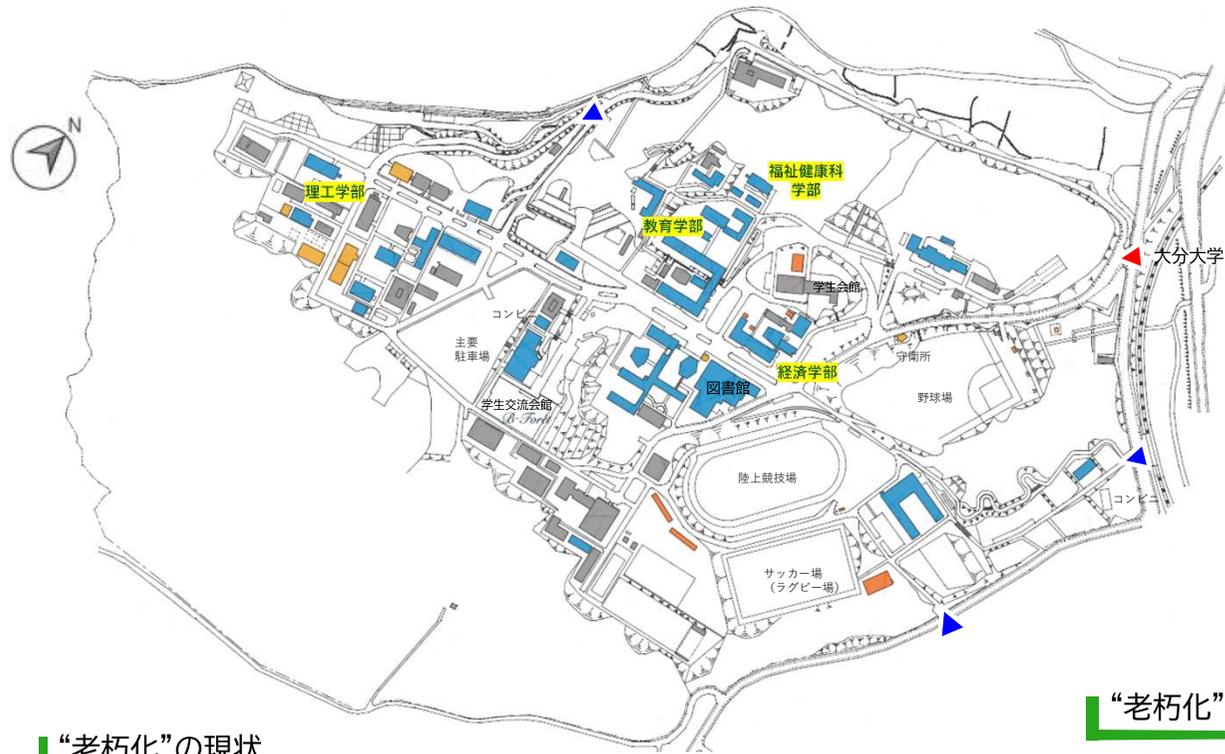


学生ラウンジ（教育学部）

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-1 施設の現状と課題

<老朽化状況の事例>



老朽化① (経)演習室棟外壁劣化



老朽化② 理工3号館トイレ全体劣化



老朽化③ 音楽室棟屋上防水劣化

凡例 ※令和6年5月1日現在

経年10年未満	
経年10年以上20年未満	
経年20年以上30年未満	
経年30年以上	未改修
	内部改修済

▲	主要な出入口
▲	その他の出入口

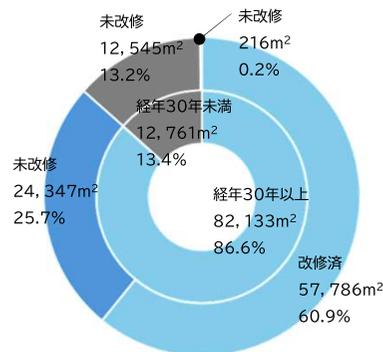
### “老朽化”の現状

旦野原キャンパスの建物面積は94,894㎡である。経年30年以上の建物が82,133㎡で86.6%を占めており、そのうち未改修の建物は24,347㎡で25.7%を占めている。構造部分に影響を来しているもの、仕上げ材の劣化により危険な状態にあるもの、設備が耐用年数を過ぎているものがあり、早急な対応が必要である。特に空調設備において、国内生産終了となったR22冷媒を使用した空調機が残っており、故障が発生した場合、修理が困難となるため更新が急務である。また、屋上防水層の劣化は経過年数に関係なく深刻な問題である。

#### ■建物の老朽化現状

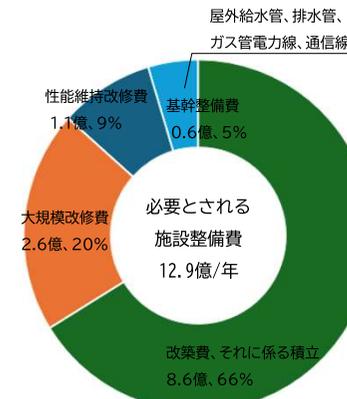
旦野原キャンパス  
建物面積  
94,894㎡

※令和6年5月1日現在  
※昭和56年以前の建物のうち、今後耐震改修を予定しないものを除く。



### “老朽化”解消に向けた課題(主要3キャンパス共通)

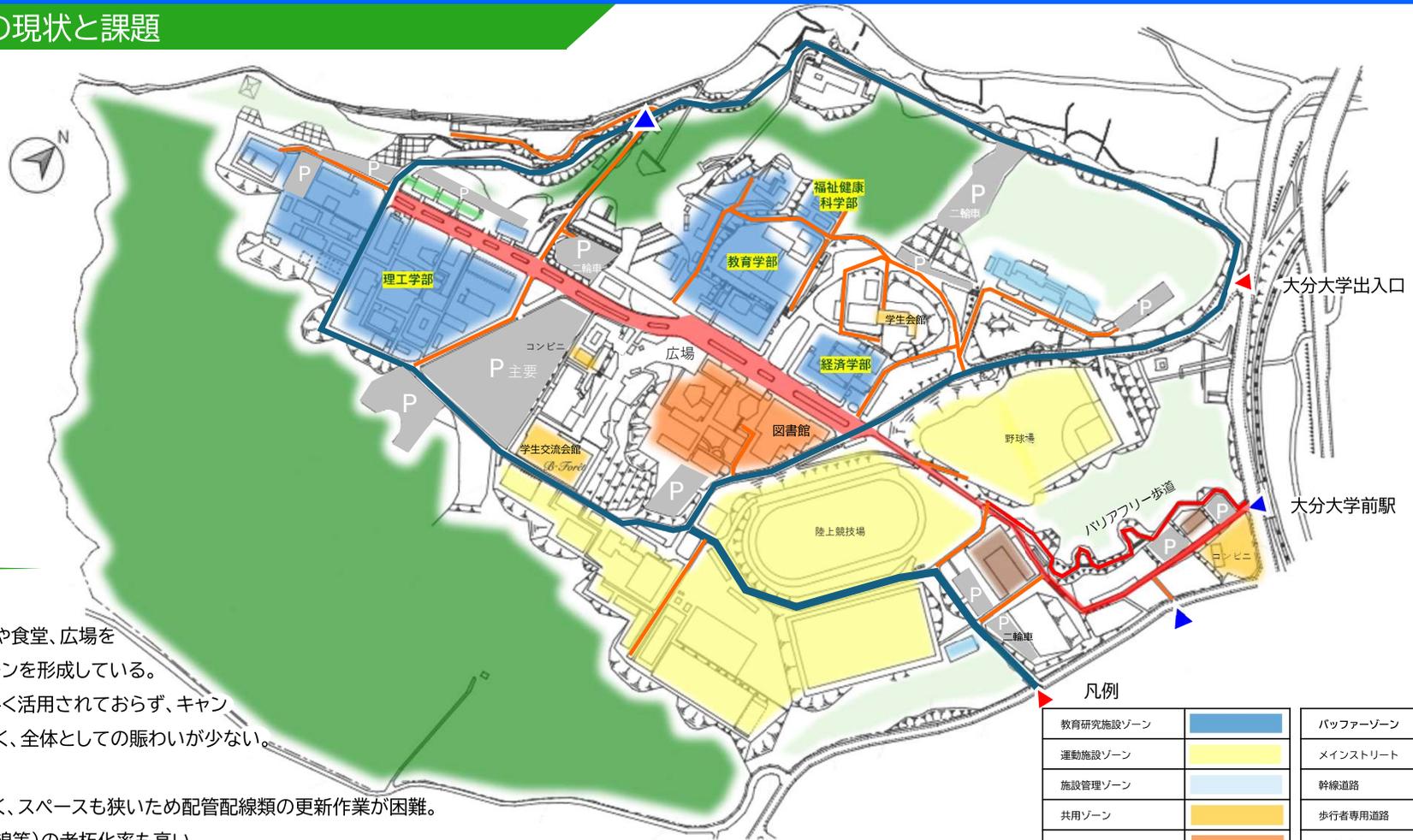
施設整備の現状として、年間12.9億円(R6.4 インフラ長寿命化計画)もの予算が必要とされているが、近年では、年間9億円程度の予算化しかできていない状況の下、老朽化の加速が進んでいる。不確実で予測不能な現代社会の中でも、安定かつ継続的な施設整備費を確保するために、スペースチャージ制度の導入やネーミングライツ等をはじめとした新たな財源の確保が喫緊の課題である。



<参考>施設の計画的な整備を行うための施設整備費の内訳(主要3キャンパス)  
※インフラ長寿命化計画(行動計画)より

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-2 屋外環境の現状と課題



### “屋外環境”の現状

#### ◆ゾーニング

・敷地の中心部に図書館や食堂、広場を配置し、学生が集うゾーンを形成している。  
 しかし、広場周辺は上手く活用されておらず、キャンパスの中心地だけでなく、全体としての賑わいが少ない。

#### ◆インフラストラクチャー

・共同溝の老朽化が著しく、スペースも狭いため配管配線類の更新作業が困難。  
 ・屋外設備(ガス管、電力線等)の老朽化率も高い。  
 ・屋外照明に消費電力の大きい水銀灯が多く残っている。

#### ◆交通バリアフリー

・幹線道路に歩道が整備されていない部分が多い。また車道の幅員が取れていない部分もある。  
 ・キャンパス中心までに行くルートは全て坂道で勾配が大きく、歩行、自転車による移動は負担が大きく、車椅子による移動は困難。

#### ◆ランドスケープ

・1965年に移転統合により設置されたキャンパスであるため、シンボルとなる歴史的建築物は存在しない。しかし、キャンパスのメインストリートに沿った建物は、耐震改修に伴い外観の統一化が図られている。  
 ・緑地率の高いキャンパスであり、樹木が建物等に弊害を及ぼしている。

#### 凡例

教育研究施設ゾーン		バッファゾーン	
運動施設ゾーン		メインストリート	
施設管理ゾーン		幹線道路	
共用ゾーン		歩行者専用道路	
共学ゾーン		一般道路	
居住ゾーン		主要な出入口	
産学連携ゾーン		上記以外の出入口	
生物多様性安全ゾーン		駐車場	

### “屋外環境”の課題

#### ◆ゾーニング

・共用ゾーンの包括的・計画的な整備によるキャンパスアメニティの向上

#### ◆インフラストラクチャー

・配管配線類の更新作業が容易な共同溝への移行、ライフラインの早期更新、屋外照明のLED化

#### ◆交通バリアフリー

・幹線道路の歩車共存化、開かれた魅力あるキャンパス整備(坂道移動の緩和に配慮した施設整備 移動手段の計画)

#### ◆ランドスケープ

・シンボルとなる環境の整備(モニュメント設置等)、改修予定建物の継続的な外観統一、緑地の維持保全計画

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-3 キャンパス整備の部門別計画

### (1) ゾーニング計画

#### ゾーニング計画の概要

旦野原キャンパスは基本的に現状のゾーニングを継承する。キャンパス西側に理工学部及び産学官連携施設ゾーン、生物多様性保全ゾーンを配置する。キャンパス中央部には教育学部、経済学部、福祉健康科学部、共学ゾーン、共用ゾーン、イノベーション創出拠点を配置する。キャンパス東側に運動施設ゾーン、住居ゾーン及び地域に開かれた拠点ゾーンを配置する。

#### 産学官連携施設(共創ゾーン)の整備

産学連携施設の拡大を行い、地域に開かれた拠点づくりを目指す。

#### パブリックスペース(共用ゾーン)の整備

経済学部と教育学部の間に共用ゾーンを設け、交流を生み出す空間、くつろげる空間を設けることで、魅力的なキャンパスの一助を目指す。

#### 地域に開かれた拠点ゾーンの整備

周辺地域のニーズ調査を行い、地域に開かれた交流拠点や地域に貢献するエリアとして開発する。地域の人も利用できるオープンスペースや有料駐車場の整備等

#### 凡例

教育研究施設ゾーン	
運動施設ゾーン	
施設管理ゾーン	
共用ゾーン	
共学ゾーン	
居住ゾーン	
共創ゾーン	
生物多様性保全ゾーン	
バッファゾーン	
メインストリート	
主要な出入口	
上記以外の出入口	

- 人が集う主拠点
- 人が集う副拠点
- 人が集う副拠点(将来)



#### イノベーション創出エリア(共創ゾーン)の拡大

カルチャードモールの隣接するキャンパスの中心にイノベーション創出エリアを拡大し、DXを活用した新たな知の創造に貢献する。

#### (仮称)カルチャードモールの整備と拡大

(キャンパス中心を通る歩行者専用の大通り)

カルチャードモールを駅前まで延伸・整備し、産学連携ゾーンや共創スペースと接続することで、イノベーション・コモンズを推進する。

#### 産学官連携施設(共創ゾーン)の整備

駅前の利便性や外部とのアクセスしやすい利点を活用し、産学連携施設を整備、地域に開かれた研究拠点を形成する。

## 第3章 旦野原キャンパス

### 3-3 キャンパス整備の部門別計画

#### (2) パブリックスペース計画

#### 旦野原キャンパスのパブリックスペース計画の基本方針

屋外スペースを中心に「キャンパス生活を豊かにする空間」、「交流を生み出す空間」、「歩いて楽しい空間」、「印象付けられる空間」に整備する。多様な利用者がくつろぎや景色の鑑賞ができるよう、植栽との調和を図った環境を整備し、潤いのある空間づくりを行う。

ここでは、代表的なものとして教育学部と経済学部間の共用ゾーンについて記載する。

#### 教育学部と経済学部間の“現在の姿”

現在の教育学部と経済学部の間は、このように樹木に覆われた空間となっている。樹木の成長は、教育学部と経済学部を分断するように立ちはだかつており、学生等が集う場所が無く、くつろぎのある魅力あるキャンパス空間となっていない。



#### 教育学部と経済学部間の共用ゾーン

教育学部と経済学部間の共用ゾーンは、「(仮称)カルチャードモール」から教育学部、経済学部及び福祉健康科学部の学生の交点であり、「学部間の交流」が頻繁に行われるスペースである。

このスペースのモニュメントや記念樹を活かしながら、利用者がくつろげるベンチ等を設け色合いは建物の外観と統一化を図る。

このスペースの整備により、学部を超えた交流が生まれ、多角的見地を持つ学生の育成に寄与することができる。



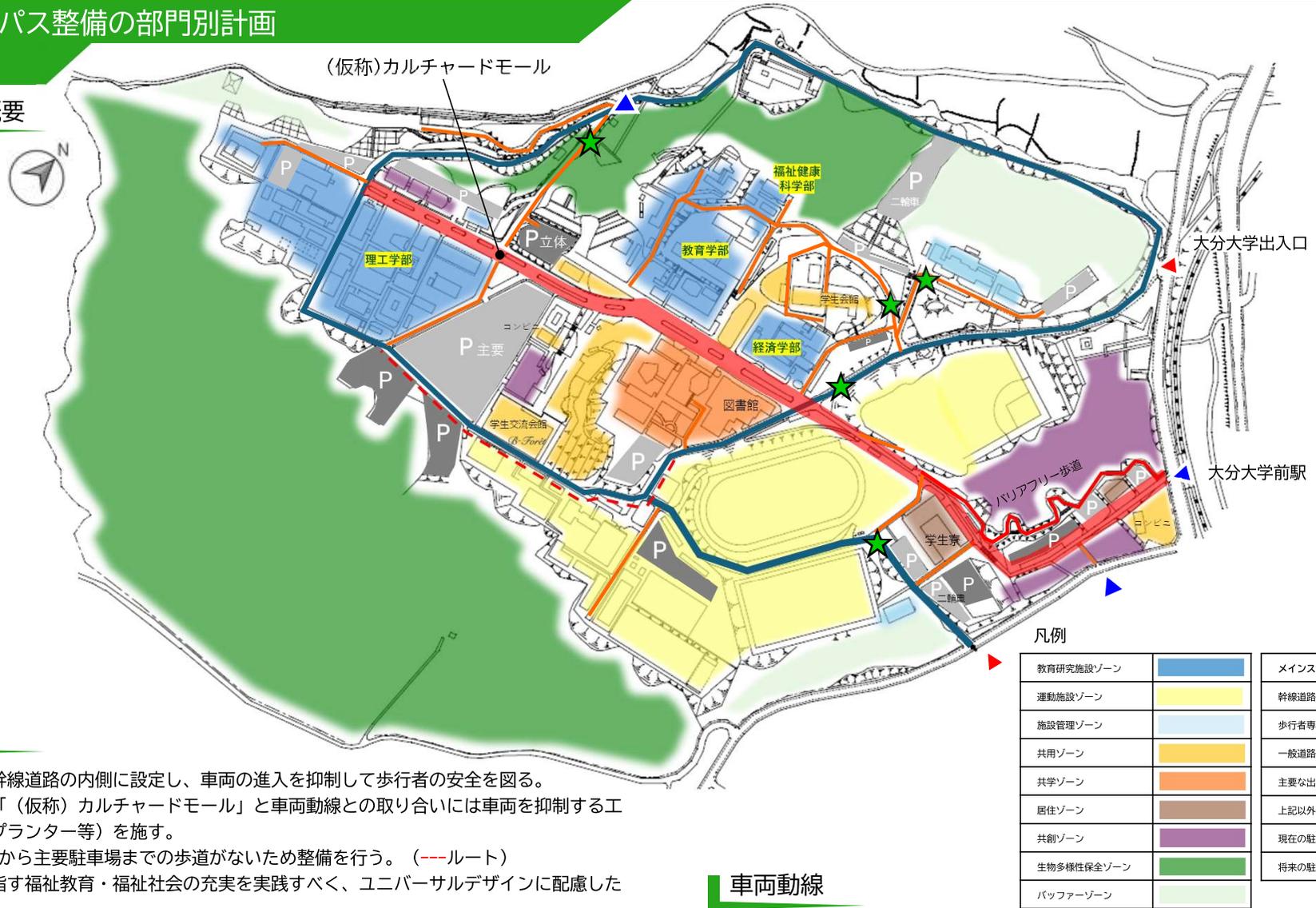
教育学部と経済学部間の共用ゾーンのイメージ

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-3 キャンパス整備の部門別計画

### (3) 動線計画

#### 動線計画の概要



#### 歩行者動線

歩行者動線は幹線道路の内側に設定し、車両の進入を抑制して歩行者の安全を図る。歩行者専用道路「(仮称)カルチャードモール」と車両動線との取り合いには車両を抑制する工夫(バリカー、プランター等)を施す。

また、図書館から主要駐車場までの歩道がないため整備を行う。(---ルート)

大分大学が目指す福祉教育・福祉社会の充実を実現すべく、ユニバーサルデザインに配慮した整備を行う。

#### 駐車場

駐車場は基本的に現状の配置を大半継承し、キャンパス中心の主要駐車場南側に計200台以上、北側を立体駐車場化して計100台程度を整備する。

また、キャンパス東側には、運動施設ゾーンに計100台程度、居住ゾーンである学生寮東側に追加で計50台程度を整備する。そして、産学官連携施設(共創ゾーン)北側に計20台以上施設整備と併せた整備を行い、キャンパス全体としての利便性向上と施設整備の充実を図る。

#### 車両動線

主要な歩行者動線の安全性確保のため、幹線道路を構内外周にループ状に配置し、歩行者動線との分離及び共存を図る。

幹線道路は現在の対面通行を基本とし、歩道の確保を図る。一般道路は幹線道路から各ゾーンへアクセスする支線とし、歩車共存を図る。

歩行者専用道路は、基本的に車両抑制する仕組みとする。

構内入構ゲートを設置し、不要な車両の入構を抑制する。(★の案の箇所)

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-3 キャンパス整備の部門別計画

### (4) インフラストラクチャー計画

#### 基本計画について

インフラストラクチャー更新は緊急性を要するものを除き、災害に対して耐久性がないもの、耐用年数を基準に老朽化率が高いものから計画を行うこととする。  
詳細についてはインフラ長寿命化計画に基づき策定する。

※インフラ長寿命化計画：工事金額、更新範囲、緊急度等を検討し、更新計画を年次計画表にまとめたもの。

#### ■旦野原キャンパスのインフラストラクチャーの種類

- 配線・配管等 (屋外給水管、屋外排水管、屋外ガス管、屋外電力線、屋外通信線)
- 設備等 (屋外照明設備、受変電設備、受水槽設備、排水処理設備、空調設備、新エネルギー利用設備、エレベータ設備等)

#### ■旦野原キャンパスのインフラストラクチャーの現状 (配線・配管等)

※老朽化率：「耐用年数以上の数値／キャンパス全体の数値」で表され、老朽化率が高いほど老朽化していることを示す。

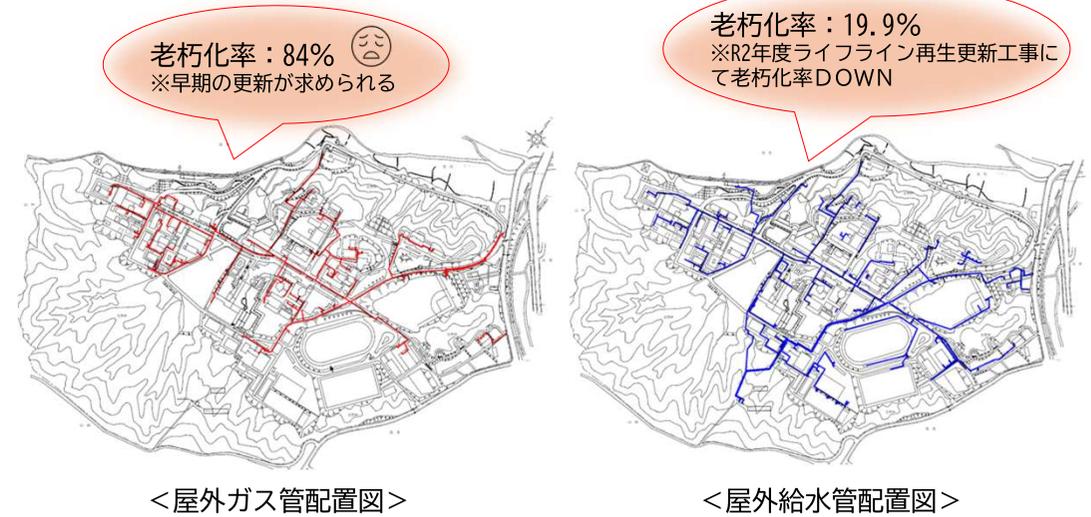
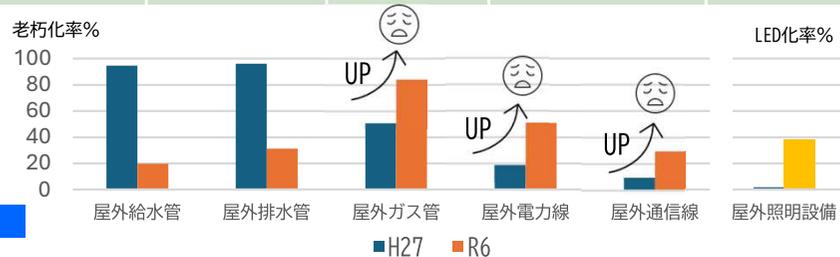
※LED化率：「LEDタイプの数値／キャンパス全体の数値」で表され、LED化率が高いほど屋外照明設備にLEDが使われていることを示す。

※耐用年数 国税庁HP (主な減価償却資産の耐用年数表) より

※令和6年5月1日現在

	耐用年数	キャンパス全体	耐用年数以上	老朽化率 (H27年5月当時)	老朽化率
屋外給水管	15年	6,869m	1,368m	94.6%	19.9%
屋外排水管	15年	6,133m	1,920m	96.2%	31.3%
屋外ガス管	15年	4,637m	3,893m	51.0%	84.0%
屋外電力線	15年	12,604m	6,430m	18.7%	51.0%
屋外通信線	15年	36,145m	10,676m	9.6%	29.5%

	キャンパス全体	LEDタイプ	LED化率 (H27年5月当時)	LED化率
屋外照明設備	201灯	77灯	1.8%	38.3%



#### ■旦野原キャンパスのインフラストラクチャーの現状 (設備等)

##### (受水槽設備)

旦野原キャンパスの受水槽設備は経年29年以上過ぎており、老朽化が認められる。



屋外受水槽設備

##### (受変電設備)

旦野原キャンパスの受変電設備は、R4年度のライフライン再生整備により、屋内受変電設備の老朽化が解消されたが、屋外受変電設備の複数個所で老朽化が認められる。



屋外受変電設備

##### (空調設備)

旦野原キャンパスの空調設備は、国内生産終了となったR22冷媒を使用した空調機が5%程度残っており、故障が発生した場合、修理が困難となるため更新が急務である。



R22冷媒を使用した空調室外機

##### (エレベータ設備)

旦野原キャンパスのエレベータ設備は、現行の法基準に適合しない既存不適格の機器が半数以上残っており、早期の適合機への更新が求められる。



エレベータ設備

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-3 キャンパス整備の部門別計画

### (5) 施設整備計画(2028)

#### 施設整備の成果とこれから

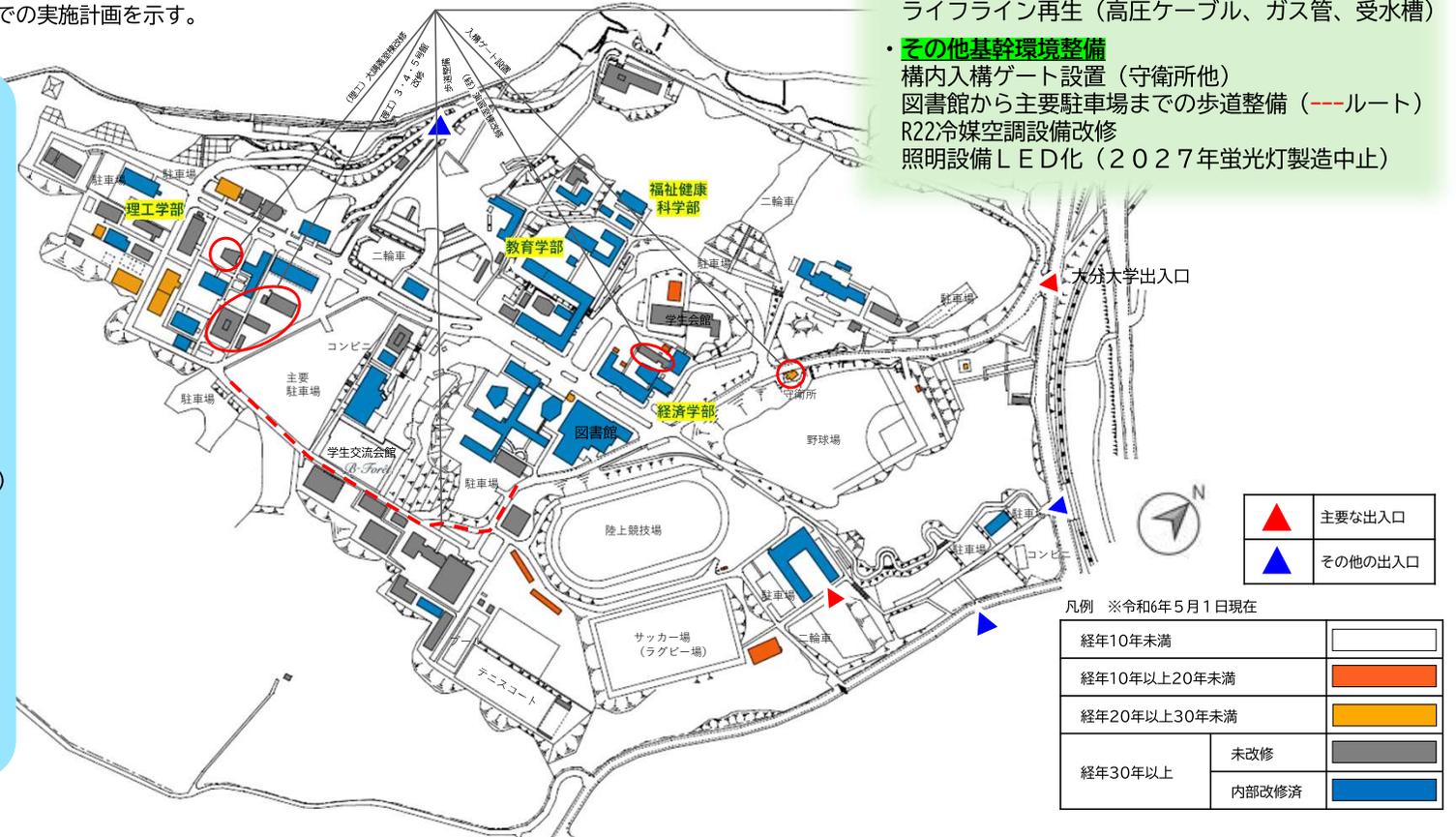
旦野原キャンパスの施設整備計画として、キャンパスマスタープラン2016における2024年までの実績および最終年である2028年までの実施計画を示す。

#### ◆ 2024年までの実績 ◆

- 老朽施設の全面改修** ⇒ 実施6棟  
 本部管理棟（外壁及び耐震改修）、技術美術棟、  
 （一）大講義室2棟、共用棟、理工第3講義棟
- 大学の戦略に関わる整備** ⇒ 実施7棟  
 学生交流会館 *B-Forêt*  
 福祉健康科学部研究棟、福祉健康科学部管理棟、  
 福祉健康科学部多目的棟、福祉健康科学部実習棟、  
 福祉健康・教育合同棟  
 福利施設食堂棟改修  
 （新棟名称：高度情報人材育成交流会館 B-Core）
- インフラストラクチャー整備**  
 ライフライン再生（給水・排水・消火・受変電設備）
- その他基幹環境整備**  
 バリアフリースロープ新設（福祉健康科学部前）  
 （経）演習室棟エレベータ改修  
 車椅子利用者用の専用駐車場整備
- キャンパスの魅力化**  
 経済学部緑地公園整備  
 学生交流会館 *B-Forêt* 緑地整備  
 多目的トイレの整備（福祉健康科学部、*B-Forêt*）  
 パウダールームの整備（理工学部）

#### ◆ 2028年までの計画 ◆

- 老朽施設の改修**  
 （理工）大講義棟改修、（経）演習室棟改修、  
 （理工）3～5号館改修
- インフラストラクチャー整備**  
 ライフライン再生（高圧ケーブル、ガス管、受水槽）
- その他基幹環境整備**  
 構内入構ゲート設置（守衛所他）  
 図書館から主要駐車場までの歩道整備（---ルート）  
 R22冷媒空調設備改修  
 照明設備LED化（2027年蛍光灯製造中止）



	2016年	2024年	2028年	2034年	2040年
キャンパスマスタープラン 策定・見直し状況	▼ キャンパス マスタープラン2016 策定	▼ キャンパス マスタープラン2024 見直し	▽ キャンパス マスタープラン2028 策定	▽ 見直し	▽
キャンパスマスタープラン 2016 計画	2024年までの 実績		2016 OUTPUT		
キャンパスマスタープラン 2028 計画	キャンパスマスタープラン2028				

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-3 キャンパス整備の部門別計画

### (5) 施設整備計画(2028)

#### 施設整備対象施設等の概要

計画の一部を掲載

#### 老朽化施設の改修

老朽化の進行により、下記全面改修を計画している。



(理工) 理工大講義棟



(経) 演習室棟



理工3号館



理工4号館

#### その他キャンパス整備

図書館から主要駐車場までのルートに歩道が無く、安全上の観点から歩道整備を計画している。また、守衛所等に入構ゲートを設置し、不要な入構車両を抑制する。



図書館から主要駐車場までの道路状況  
(歩道の未整備)



守衛所周辺



理工5号館

# 第3章 旦野原キャンパス

## 3-3 キャンパス整備の部門別計画

### (6) 施設整備計画(2040)

#### 旦野原キャンパスの施設整備計画（～2040年）

2040年までの将来プランとして、各個別計画で謳った計画等を推進する。老朽化施設の改修やライフライン等の整備についても、施設の状態を把握し、性能維持改修を行っていく。

この計画推進により、更なるイノベーション・コモンズ（共創拠点）への転換を図り、アカデミックプランの実現に向け取り組んでいく。

#### ★駐車場整備と拡大

キャンパスの利便性の向上のため駐車場の整備拡大を行う。立体Pは、1階は2輪専用、2階を自動車専用とする。



立体駐車場イメージ

#### ★パブリックスペース（共用ゾーン）の整備

経済学部と教育学部の間及び共用棟周辺、学生会館に共用ゾーンを設け、交流を生み出す空間を設ける。またキャンパス中心の学生交流会館横の小山部分を整地し、共用ゾーンを拡大する。この共用ゾーンにおいては、カルチャードモールと一体性のあるパブリックスペース空間の構築を行う。



共用ゾーンイメージ（国土交通省資料より抜粋）

#### ★土砂災害対策

ハザードマップでは土砂災害警戒区域に指定されているため、安全で安心なキャンパスづくりに向け、災害対策について検討する。（----- エリア）



#### ★イノベーション創出エリア（共創スペース）の拡大

DXの加速化、社会情勢の変化に対応した共創拠点としての機能を拡大していく。



VR室イメージ

#### ★地域に開かれた拠点の整備

地域社会との機能融合を進め、民間連携等を含め戦略的に整備を行う。

大分大学出入口



（例）カフェテリアを併設した地域との交流拠点

大分大学前駅

#### 凡例

教育研究施設ゾーン	
運動施設ゾーン	
施設管理ゾーン	
共用ゾーン	
共学ゾーン	
居住ゾーン	
共創ゾーン	
生物多様性保全ゾーン	
パワファーズゾーン	
メインストリート	
幹線道路	
主要な出入口	
上記以外の出入口	
現在の駐車場	
将来の駐車場	

（仮称）

#### ★カルチャードモールの整備と拡大

（キャンパス中心を通る歩行者専用の大通り）

キャンパス全体の活性化のためにカルチャードモールの拡大し、大学へ入りやすく、ユニバーサルデザイン（ダイバーシティ）に配慮した歩道整備を行う。



（仮称）カルチャードモールイメージ（国土交通省資料より抜粋）

#### 自動運転技術の実証実験イメージ



国土交通省より抜粋

旦野原キャンパス内の広大な幹線道路を使用した自動運転走行等の実証実験を実施する。

#### ★産学官連携施設（共創拠点）の整備

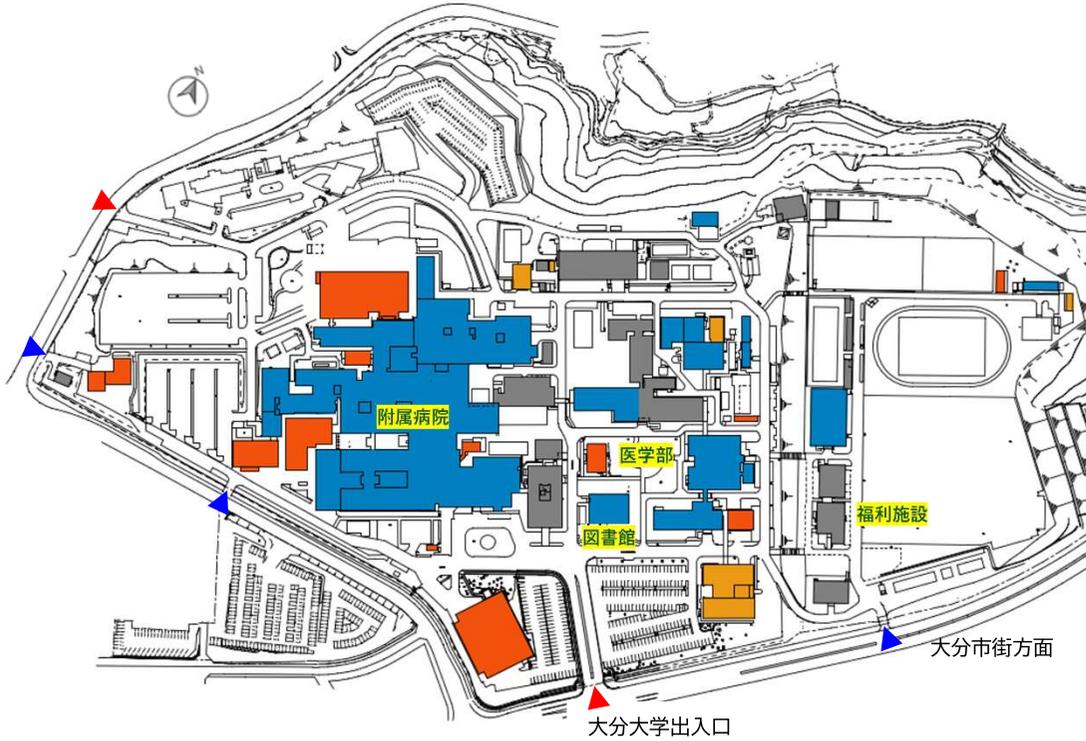
教育研究の高度化、多様化に対応した研究施設等を地域に開かれた拠点として整備を行う。



フロア構成イメージ

# 第4章 挟間キャンパス

## 4-1 施設の現状と課題



凡例 ※令和6年5月1日現在

経年10年未満			主要な出入口
経年10年以上20年未満			
経年20年以上30年未満			
経年30年以上	未改修		その他の出入口
	内部改修済		

### <老朽化状況の事例>



外壁タイル破損、浮き（管理棟）



屋上防水劣化（RI治療棟）



軒裏露筋（プール附属家）



配管腐食（中央機械室）

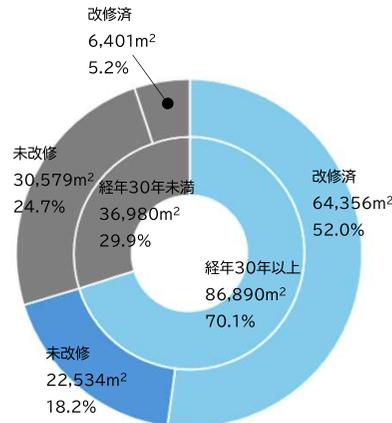
### “老朽化”の現状

挟間キャンパスの建物面積は123,870㎡である。経年30年以上の建物が86,890㎡で70.1%を占めており、そのうち未改修の建物は22,534㎡で18.2%を占めている。仕上げ材や屋上防水層の劣化により危険な状態にあるもの、設備が耐用年数を過ぎているもの、研究に対して建物設備が不足しているものがあり、早急な対応が必要である。附属病院の再整備が令和元年10月に完了し、引き続き、学部の再整備についても早急に実施する必要がある。

#### ■ 建物の老朽化現状

挟間キャンパス  
建物面積  
123,870㎡

※令和6年5月1日現在  
※昭和56年以前の建物のうち、今後耐震改修を予定しないものを除く  
※看護師宿舍除く  
※工事中で未完の建物を含まない

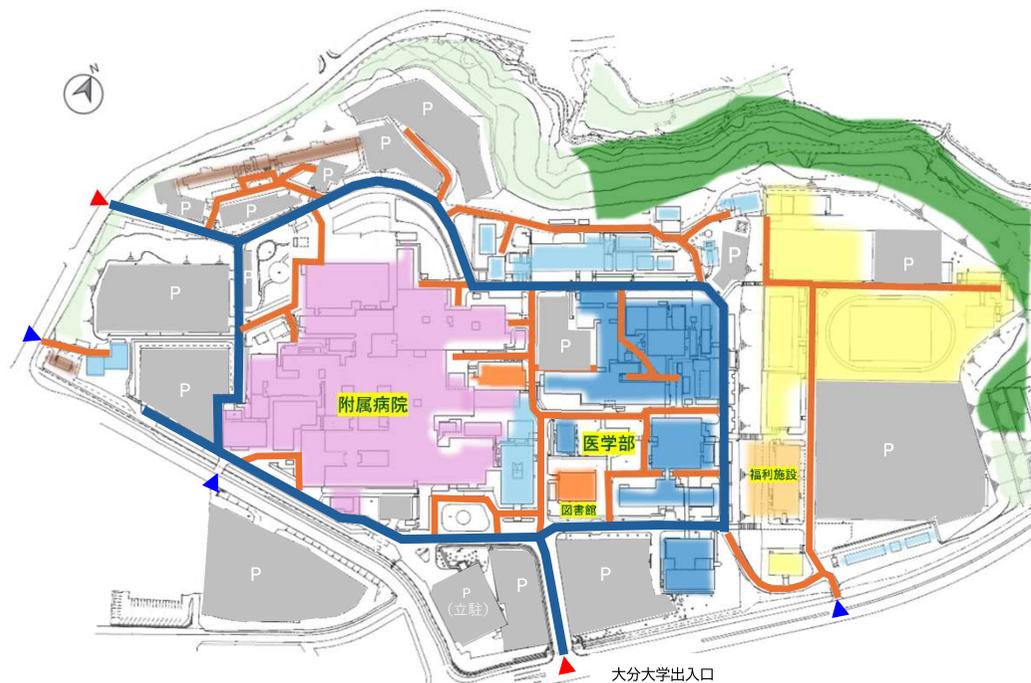


### “老朽化”の解消に向けた課題(主要3キャンパス共通)

主要3キャンパス共通課題であるP44に示す。

# 第4章 挟間キャンパス

## 4-2 屋外環境の現状と課題



### 凡例

教育研究施設ゾーン		生物多様性保全ゾーン	
附属病院ゾーン		バッファゾーン	
運動施設ゾーン		幹線道路	
施設管理ゾーン		一般道路	
共用ゾーン		主要な出入口	
共学ゾーン		上記以外の出入口	
居住ゾーン		駐車場	

### 屋外環境の現状

#### ◆ゾーニング

敷地の西側に附属病院があり、東側に医学部関係施設が配置されている。北側に管理施設となるインフラストラクチャーが整備されている。医学部の学生が利用する福利厚生施設が教育研究施設と離れており利便性が悪い。

#### ◆インフラストラクチャー

- ・屋外整備（排水管・ガス管等）の老朽化率が高い。
- ・屋外照明に消費電力の大きい水銀灯が残っている。

#### ◆交通バリアフリー

- ・キャンパス正門は、キャンパスを利用する全ての車両が出入りしている。2023年に挟間キャンパス出入口複線化（4車線）により周辺道路の渋滞緩和を行った。
- ・駐車場不足問題の解消として、福祉施設東側及びテニスコート横に駐車場整備を行った。
- ・医学部北側の幹線道路において、歩道が整備されていない。

#### ◆ランドスケープ

- ・1976年に設置されたキャンパスであるため、シンボルとなる歴史的建築物は存在しない。キャンパス内の外観の統一性がない。



医学部と離れている福祉施設



老朽化した外灯



歩道の未整備

### 屋外環境の課題

#### ◆ゾーニング

- ・医学部福利施設の集約及び歩行者専用道路整備によるキャンパスアメニティの向上

#### ◆インフラストラクチャー

- ・ライフラインの早期更新、屋外照明のLED化

#### ◆交通バリアフリー

- ・幹線道路の歩車共存化、バリアフリー歩道の整備

#### ◆ランドスケープ

- ・シンボルとなる環境の整備（モニュメント設置等）、キャンパス内建物の外観統一

# 第4章 挟間キャンパス

## 4-3 キャンパス整備の部門別計画

### (1) ゾーニング計画

#### ゾーニング計画の概要

挟間キャンパスは基本的に現状のゾーニングを継承する。キャンパス東側に医学部、運動施設ゾーンを配置し、キャンパス西側に附属病院を配置する。

#### パブリックスペース(共用ゾーン)の整備

屋内外のスペースを中心に「キャンパス生活を豊かにする空間」「交流を生み出す空間」に整備し、多様な利用者がくつろぎ、潤いある空間づくりを行う。

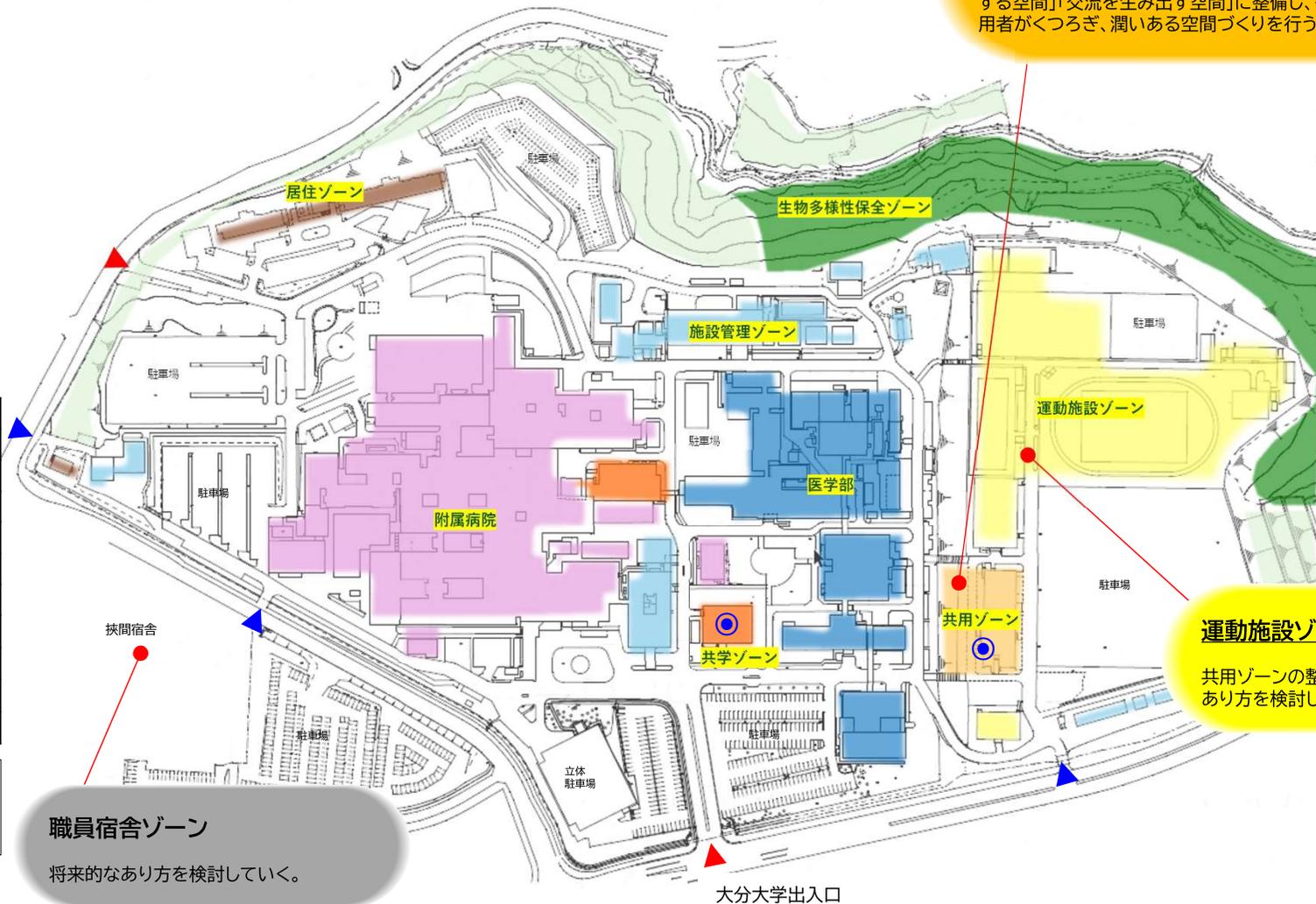
#### 凡例

教育研究施設ゾーン	
附属病院ゾーン	
運動施設ゾーン	
施設管理ゾーン	
共用ゾーン	
共学ゾーン	
居住ゾーン	
生物多様性保全ゾーン	
バッファゾーン	
主要な出入口	
上記以外の出入口	

- 人が集う主拠点
- 人が集う副拠点
- 人が集う副拠点(将来)

#### 職員宿舎ゾーン

将来的なあり方を検討していく。



#### 運動施設ゾーン

共用ゾーンの整備とあわせて、将来的なあり方を検討していく。

## 第4章 挟間キャンパス

### 4-3 キャンパス整備の部門別計画

#### (2) パブリックスペース計画

##### 挟間キャンパスのパブリックスペース計画の基本方針

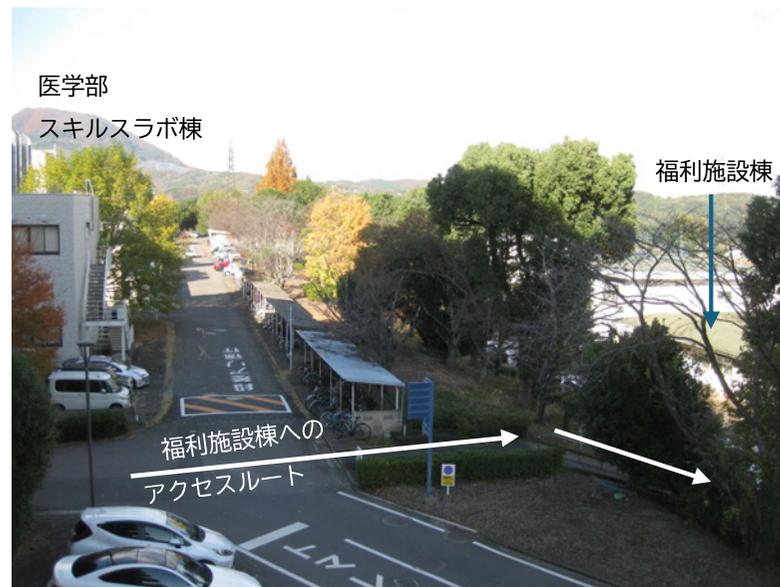
屋内外のスペースを中心に「キャンパス生活を豊かにする空間」、「交流を生み出す空間」「歩いて楽しい空間」、「印象付けられる空間」に整備する。多様な利用者がくつろぎや景色の鑑賞ができるよう、植栽との調和を図った環境を整備し、潤いのある空間づくりを行う。

ここでは、代表的なものとして福利施設周りの共用ゾーンについて記載する。

##### 福利施設周りの現在の“現在の姿”

現在の福利施設周りの共用ゾーンは、医学部の建物がある敷地よりも一段下がったスペースに位置し、その間は樹木に覆われている。

また、医学部中心部より離れているためアクセスにおける利便性が悪く、経年44年と老朽化している状況下、交流を生み出す拠点としての整備が求められる。



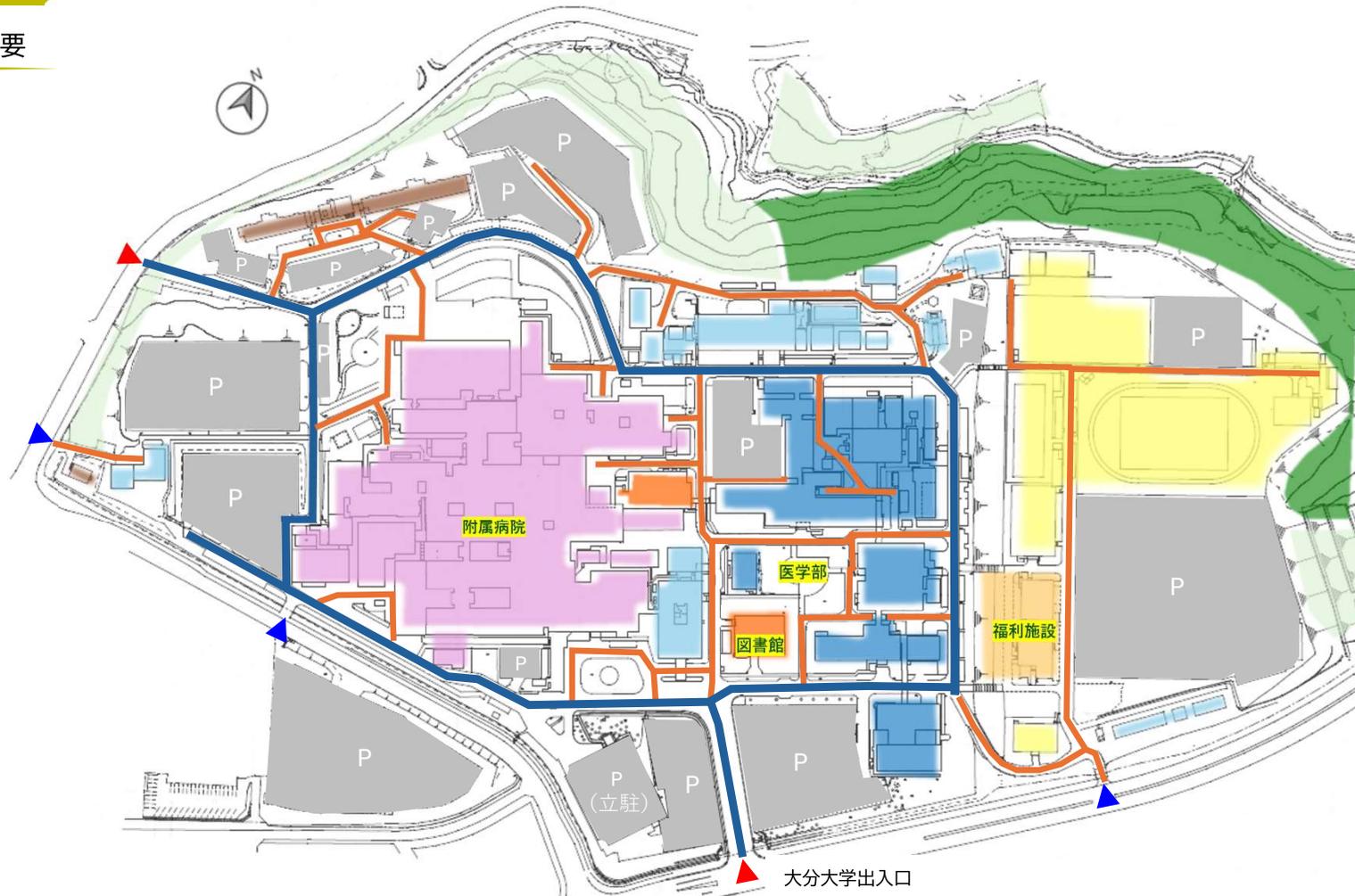
福利施設周りの共用ゾーンのイメージ

# 第4章 挟間キャンパス

## 4-3 キャンパス整備の部門別計画

### (3) 動線計画

#### 動線計画の概要



凡例

教育研究施設ゾーン	
附属病院ゾーン	
運動施設ゾーン	
施設管理ゾーン	
共用ゾーン	
居住ゾーン	
生物多様性保全ゾーン	
バッファゾーン	
幹線道路	
一般道路	
主要な出入口	
上記以外の出入口	
駐車場	

#### 車両動線

幹線道路は構内にループ状に配置する。幹線道路は基本的に片側一車線と歩道を確保し、歩車共存を図る。一般道路は幹線道路から各ゾーンへアクセスする支線とし、仕組みは現在のものを継承する。

#### 駐車場

駐車場は基本的に幹線道路沿いに配置し、キャンパス中心部への車両進入を抑制する。キャンパス西側の駐車場を外来専用、その他の駐車場を学生及び教職員専用と明確に分け、仕組みは現在のものを継承する。

# 第4章 挟間キャンパス

## 4-3 キャンパス整備の部門別計画

### (4) インフラストラクチャー計画

#### 基本計画について

インフラストラクチャー更新は緊急性を要するものを除き、災害に対して耐久性がないもの、耐用年数を基準に老朽化率が高いものから計画を行うこととする。  
詳細についてはインフラ長寿命化計画に基づき策定する。

※インフラ長寿命化計画：工事金額、更新範囲、緊急度等を検討し、更新計画を年次計画表にまとめたもの。

#### ■挟間キャンパスのインフラストラクチャーの種類

配線・配管等 ( 屋外給水管、屋外排水管、屋外ガス管、屋外電力線、屋外通信線 )  
設備等 ( 屋外照明設備、受変電設備、自家発電設備、中央監視制御設備、受水槽設備、排水処理設備、冷凍機設備、ボイラー設備、空調設備、エレベータ設備等 )

#### ■挟間キャンパスのインフラストラクチャーの現状 (配線・配管等)

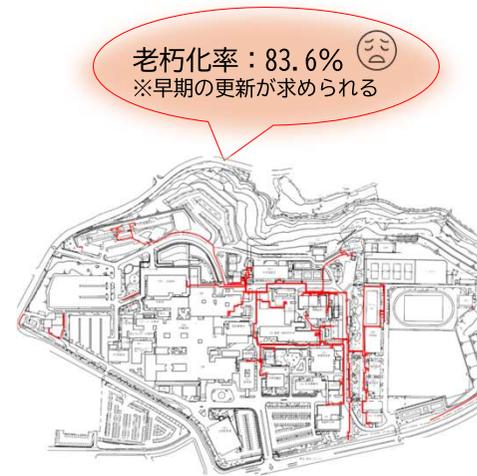
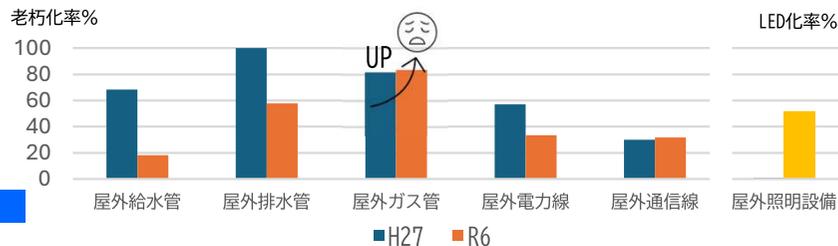
※老朽化率：「耐用年数以上の数値／キャンパス全体の数値」で表され、老朽化率が高いほど老朽化していることを示す。

※LED化率：「LEDタイプの数値／キャンパス全体の数値」で表され、LED化率が高いほど屋外照明設備にLEDが使われていることを示す。

※耐用年数 国税庁HP (主な減価償却資産の耐用年数表) より ※令和6年5月1日現在

	耐用年数	キャンパス全体	耐用年数以上	老朽化率 (H27年5月当時)	老朽化率
屋外給水管	15年	4,353m	795m	68.3%	18.3%
屋外排水管	15年	5,070m	2,937m	100%	57.9%
屋外ガス管	15年	2,456m	2,052m	81.6%	83.6%
屋外電力線	15年	12,298m	4,129m	57.0%	33.6%
屋外通信線	15年	24,303m	7,702m	30.1%	31.7%

	キャンパス全体	LEDタイプ	LED化率 (H27年5月当時)	LED化率
屋外照明設備	172灯	89灯	0.8%	51.7%



<屋外ガス管配置図>



<屋外排水管配置図>

#### ■挟間キャンパスのインフラストラクチャーの現状 (設備等)

##### (受水槽設備)

挟間キャンパスの受水槽設備は、経年29年以上過ぎているものがあり、老朽化が認められる。



屋外受水槽設備

##### (受変電設備)

挟間キャンパスの受変電設備は、附属病院再整備において老朽化が解消されたが、医学部において、経年35年以上過ぎているものがあり、老朽化が認められる。



受変電設備

##### (空調設備)

挟間キャンパスの空調設備は、国内生産終了となったR22冷媒を使用した空調機がわずかに残っており、故障が発生した場合、修理が困難となるため更新が急務である。



R22冷媒を使用した空調室外機

##### (エレベータ設備)

挟間キャンパスのエレベータ設備は、現行の法基準に適合しない既存不適格の機器が一部残っており、早期の適合機への更新が求められる。



エレベータ設備

# 第4章 挟間キャンパス

## 4-3 キャンパス整備の部門別計画

### (5) 施設整備計画(2028)

#### 施設整備の成果とこれから

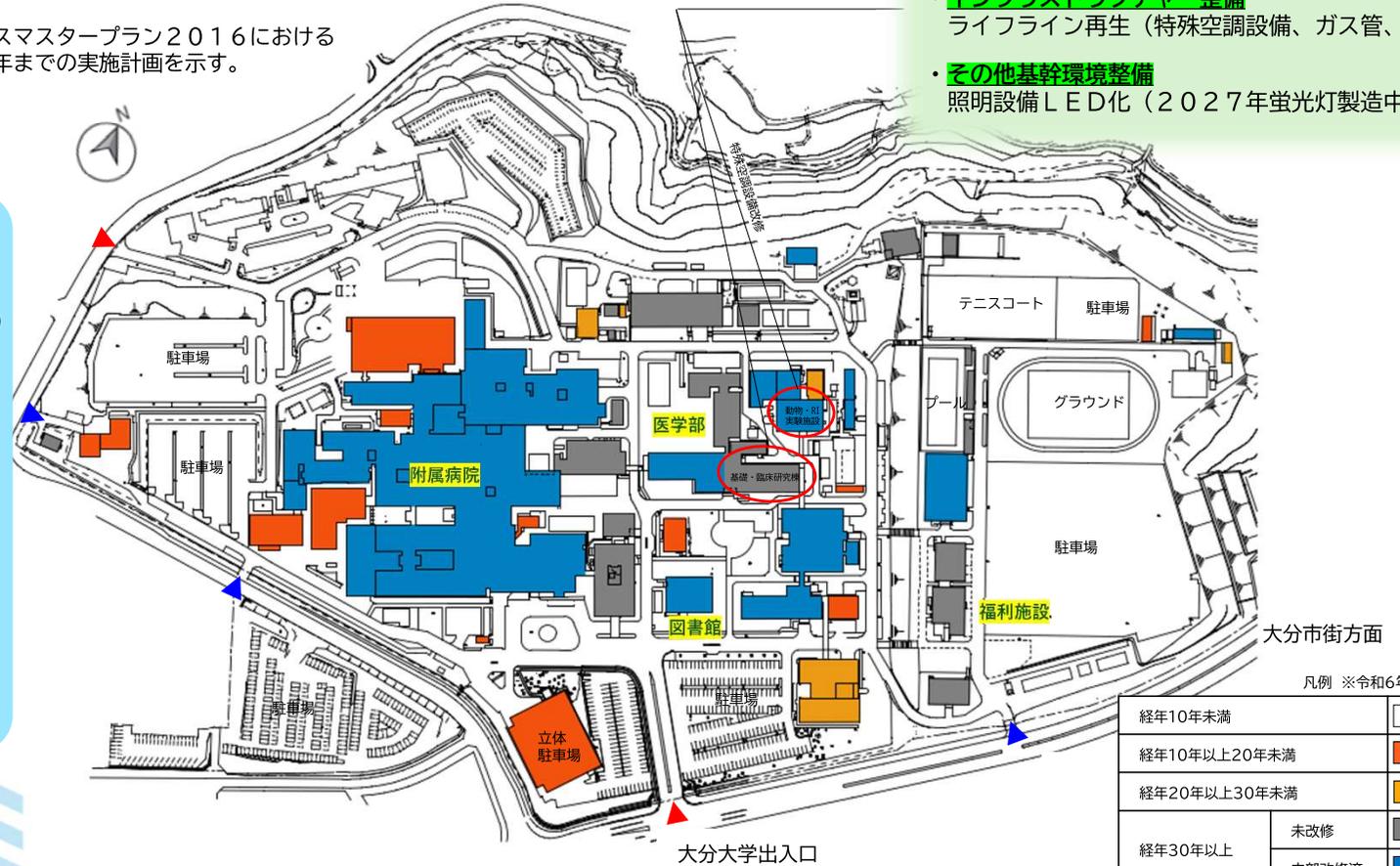
挟間キャンパスの施設整備計画として、キャンパスマスタープラン2016における2024年までの実績および最終年である2028年までの実施計画を示す。

#### ◆ 2028年までの計画 ◆

- **老朽施設の改修**  
基礎・臨床研究棟（東側）
- **インフラストラクチャー整備**  
ライフライン再生（特殊空調設備、ガス管、通信線）
- **その他基幹環境整備**  
照明設備LED化（2027年蛍光灯製造中止）

#### ◆ 2024年までの実績 ◆

- **老朽施設の全面改修** ⇒ 6棟  
附属病院、動物・RI実験施設  
感染動物実験施設、基礎・臨床研究棟（西側）  
基礎実習棟、サークル施設
- **大学の戦略に関わる整備** ⇒ 実施2棟  
多用途型トリアージスペース棟 新営  
グローバル感染症研究センター 新営
- **性能維持改修**  
看護学科棟（防水・外壁）
- **インフラストラクチャー整備**  
ライフライン再生（給水・排水・受変電設備）
- **その他基幹環境整備**  
駐車場整備（福利施設東側、テニスコート横）  
入口道路複線化  
管理棟エレベータ増築



	2016年	2024年	2028年	2034年	2040年
キャンパスマスタープラン 策定・見直し状況	▼ キャンパス マスタープラン2016 策定	▼ キャンパス マスタープラン2024 見直し	▽ キャンパス マスタープラン2028 策定	▽ 見直し	▽
キャンパスマスタープラン 2016 計画	2024年までの 実績		2016 OUTPUT		
キャンパスマスタープラン 2028 計画	キャンパスマスタープラン2028				

## 第4章 挟間キャンパス

### 4-3 キャンパス整備の部門別計画

#### (5) 施設整備計画(2028)

##### 施設整備対象施設の概要

計画の一部を掲載

##### 老朽化施設の改修

老朽化の進行により、下老朽化施設の改修及びライフライン再生（特殊空調設備）の改修を計画している。



経年46年

(医) 基礎・臨床研究棟(東側外観)



(医) 基礎・臨床研究棟 (廊下)



経年31年

(医) 動物・R I 実験施設ヒートポンプチラー



(医) 基礎・臨床研究棟  
(雨漏りによる天井ボード劣化)



(医) 基礎・臨床研究棟  
(空調設備の劣化状況)



(医) 動物・R I 実験施設ヒートポンプチラー  
(基礎の劣化状況)



(医) 動物・R I 実験施設ヒートポンプチラー  
(循環ポンプの劣化状況)

# 第4章 挟間キャンパス

## 4-3 キャンパス整備の部門別計画

### (6) 施設整備計画(2040)

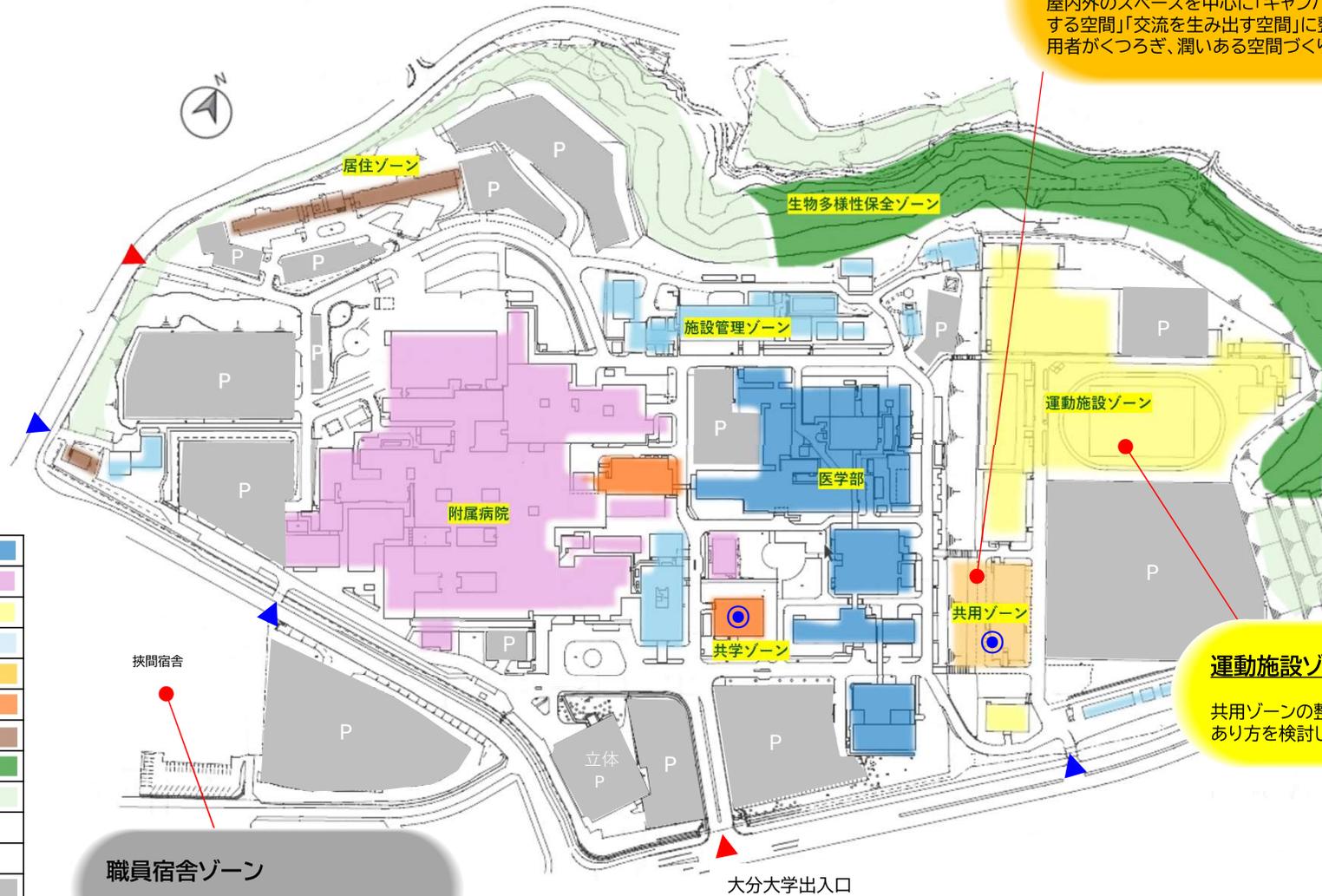
#### 挟間キャンパスの施設整備計画（～2040年）

2040年までの将来プランとして、各個別計画で謳った計画等を推進する。老朽化施設の改修やライフライン等の整備についても、施設の状況を把握し、性能維持改修を行っていく。

この計画推進により、先端医療と高度な福祉支援の推進、地域への健康と福祉の提供を行うとともに高い倫理観と使命感を持つ医療・福祉人材を養成していく。

#### パブリックスペース(共用ゾーン)の整備

屋内外のスペースを中心に「キャンパス生活を豊かにする空間」「交流を生み出す空間」に整備し、多様な利用者がくつろぎ、潤いある空間づくりを行う。



#### 運動施設ゾーン

共用ゾーンの整備とあわせて、将来的なあり方を検討していく。

#### 職員宿舎ゾーン

将来的なあり方を検討していく。

#### 凡例

教育研究施設ゾーン	
附属病院ゾーン	
運動施設ゾーン	
施設管理ゾーン	
共用ゾーン	
共学ゾーン	
居住ゾーン	
生物多様性保全ゾーン	
パUFFERゾーン	
主要な出入口	
上記以外の出入口	
駐車場	

## 第4章 挟間キャンパス

### 4-3 キャンパス整備の部門別計画

#### (7) 感染症研究拠点を目標として

◎大分大学では感染症流行時や災害発生時の診療体制を強化し、地域医療における最後の砦として、機能・役割を発揮するとともに、大学の教育・研究機能を確保するよう施設整備を計画する。

※トリアージ：患者における傷病の緊急度判定や選別を行うこと。

#### グローバル感染症研究センター

大分大学では、国境・県境を超えたグローバル（グローバル／ローカル）な感染症に対峙できる研究活動と人材育成を通じ、我が国の感染症研究基盤の強化・充実に資するため、全国共同利用型の研究組織「グローバル感染症研究センター」を2021年10月に設置した。それに伴い、2023年には挟間キャンパスにて地上4階建て、延べ床面積約970㎡の研究センターを建設した。本センターには、4つの研究部門を設置し、本学の国際的な感染症研究に従事する教員及び本学に蓄積された研究成果等を集結させた上で先進的な感染症に関する研究を推進するとともに、医学部関連講座とも連携し、新薬の開発なども積極的に展開する計画である。

将来的にも本センターの特色である「新興・再興ウイルス・細菌感染症」、「創薬」を活かし、九州県内の関連大学との連携を進めるなど、ネットワーク型の共同利用・共同研究拠点を目指していく。



グローバル感染症研究センターのサイン



グローバル感染症研究センターの外観

#### 多用途型トリアージスペース棟

附属病院は大分県の基幹災害拠点病院に認定され、大規模災害やテロ、放射性物質による汚染への対応など、通常の医療だけでなく災害医療でも大分県における最後の砦としての役割が求められている。2020年には新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、予期せぬ災害等に対応すべく、多用途型トリアージスペース棟を設置し、2022年4月から運用を開始した。2023年には、新型コロナウイルスは5類型になり、ようやく新型コロナ禍は収束したが、将来の新興・再興感染症に対しても、大分県の最後の砦として最大限の体制を整えていく。



多用途型トリアージスペース棟の外観

# 第5章 王子キャンパス

## 5-1 施設の現状と課題



凡例 ※令和6年5月1日現在

経年10年未満		
経年10年以上20年未満		
経年20年以上30年未満		
経年30年以上	未改修	
	内部改修済	

	主要な出入口
	その他の出入口

### <老朽化状況の事例>



老朽化①（附小）プレイルーム室内

経年45年



老朽化②（附中）武道場屋根劣化

経年34年



老朽化③（附幼）保育室棟

経年52年



老朽化④（特支）体育館

経年50年



老朽化⑤（教育学部）実践センター

経年45年

### “老朽化”の現状

王子キャンパスの建物面積は19,477㎡である。経年30年以上の建物が16,768㎡で85.7%を占めている。そのうち未改修の建物は3,727㎡で19.2%である。未改修の建物では、内外仕上げ部及び屋上防水層の劣化が多くみられ、早急な対応が必要である。

#### ■ 建物の老朽化現状

王子キャンパス  
建物面積  
19,477㎡

※令和6年5月1日現在  
※昭和56年以前の建物のうち、今後耐震改修を予定しないものを除く。



### “老朽化”の解消に向けた課題(主要3キャンパス共通)

主要3キャンパス共通課題であるP44に示す。

# 第5章 王子キャンパス

## 5-2 屋外環境の現状と課題



### 凡例

教育研究施設ゾーン		歩行者専用道路	
運動施設ゾーン		主要な出入口	
施設管理ゾーン		上記以外の出入口	
メインストリート		駐車場	



渋滞状況時（メインストリートT字路）



駐車場不足時（メインストリートへの縦列駐車）



バリアフリーではない歩道（石畳）



建物に隣接した樹木（附小特別教室棟）

### 屋外環境の現状

#### ◆ゾーニング

・敷地内を縦と横に延びる幹線道路を基軸とし、その道路に沿って附属小学校、附属中学校、附属幼稚園、附属特別支援学校が配置されている。

#### ◆インフラストラクチャー

・屋外整備（給水管・排水管・ガス管・電力線・通信線）の老朽化率が高い。  
 ・屋外照明に消費電力の大きい水銀灯が残っている。

#### ◆交通バリアフリー

・4箇所ある出入口の内、保護者などの一般車両が入場できる出入口が1箇所しかないので、混雑が見受けられる。  
 ・駐車スペースと混在した幹線道路の幅が狭く、車両同士の離合が困難。  
 ・歩道が一部未整備で附属小の一部では、バリアフリーではない歩道もある。

#### ◆ランドスケープ

・歴史的建築物やシンボルとなる建築物が存在せず、キャンパス内の景観に統一性がない。  
 ・樹木が多く建物等に弊害を及ぼしている。

### 屋外環境の課題

#### ◆ゾーニング

・キャンパス内の動線整備による、4校園ゾーンの機能活性化

#### ◆インフラストラクチャー

・ライフラインの早期更新、屋外照明のLED化

#### ◆交通バリアフリー

・駐車スペースの確保、構内渋滞緩和、幹線道路の歩車共存化、バリアフリー歩道の整備

#### ◆ランドスケープ

・シンボルとなる環境の整備（モニュメント設置等）、統一性のある建物外観の整備、緑地の維持保全計画

# 第5章 王子キャンパス

## 5-3 キャンパス整備の部門別計画

### (1) ゾーニング計画

#### ゾーニング計画の概要

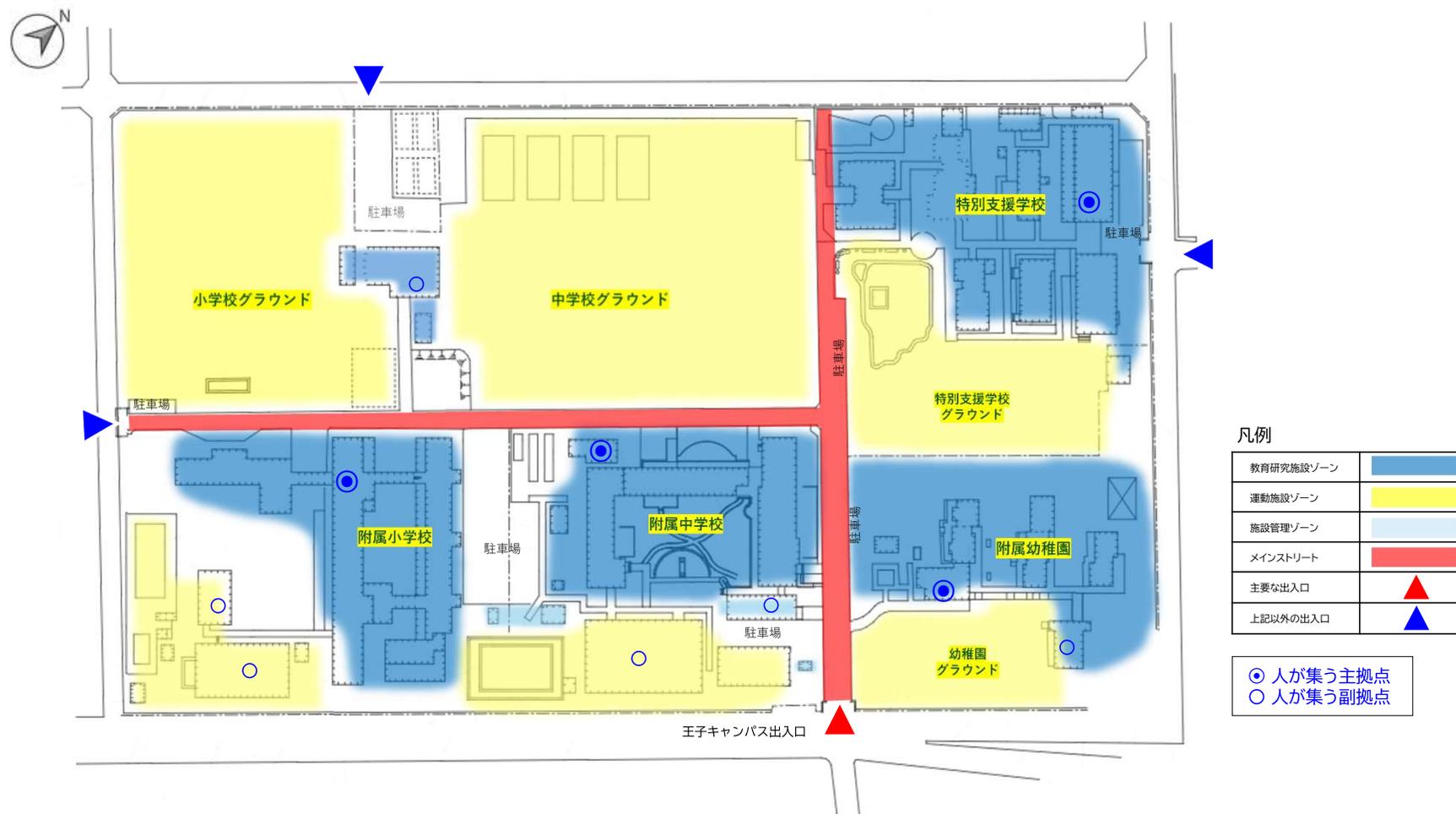
王子キャンパスは基本的に現状のゾーニングを継承する。配置図向かって左より附属小学校、中央に附属中学校、右下に附属幼稚園、右上に特別支援学校を配置する。

#### 教育研究施設ゾーン

「教育研究施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、教育研究を高いレベルで行うための環境整備を行う。

#### 運動施設ゾーン

「運動施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、機能向上を中心とした整備を図る。

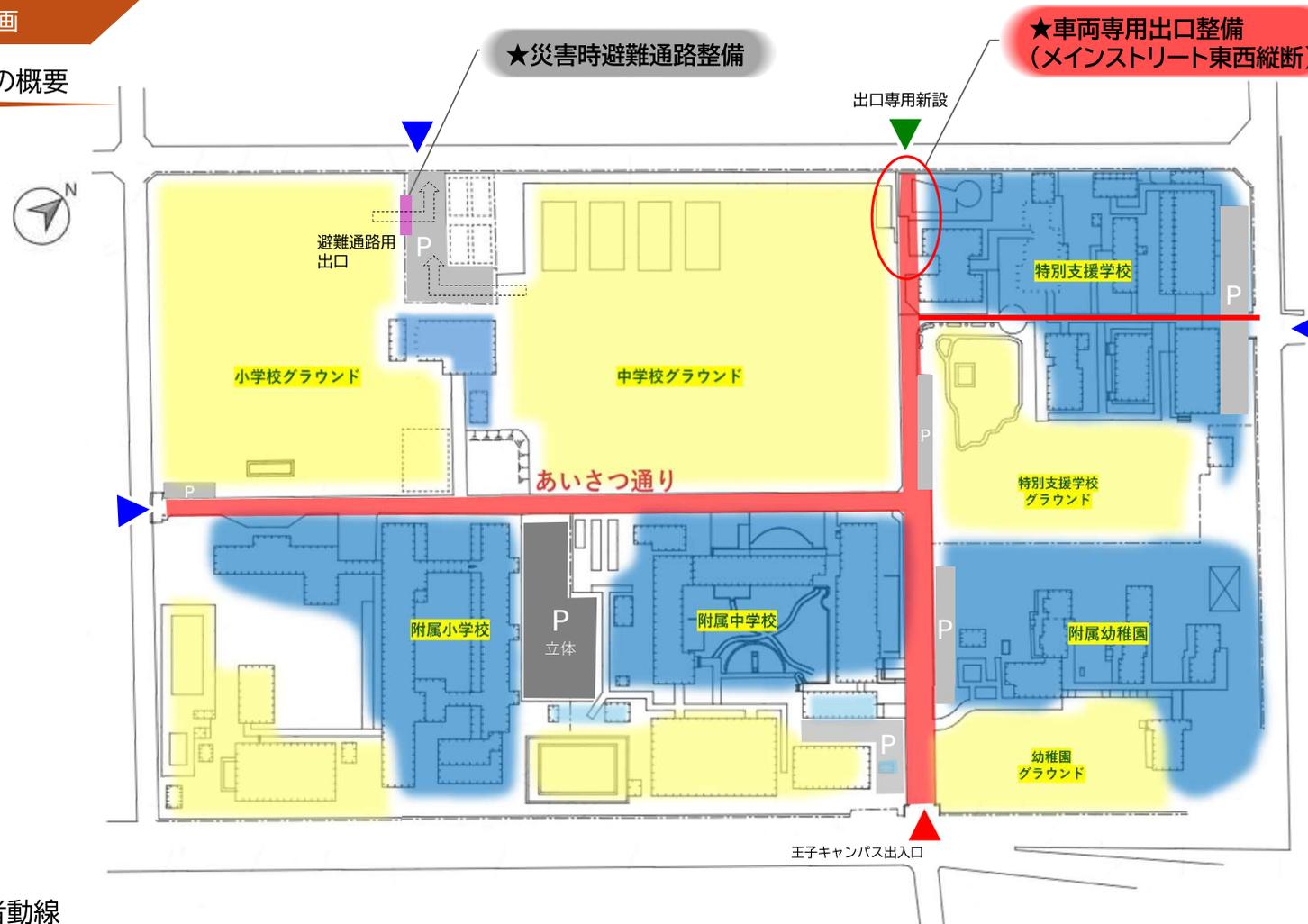


# 第5章 王子キャンパス

## 5-3 キャンパス整備の部門別計画

### (2) 動線計画

#### 動線計画の概要



#### 凡例

教育研究施設ゾーン	
運動施設ゾーン	
施設管理ゾーン	
メインストリート	
歩行者専用道路	
主要な出入口	
上記以外の出入口	
現在の駐車場	
将来の駐車場	

#### 歩行者動線

歩行者動線は、附属中学校及び附属小学校前の「あいさつ通り」と幹線道路で分断された敷地内に配置する。

#### 駐車場

駐車場は基本的に幹線道路沿いに配置する。現在駐車場が不足している実態があり、附属小学校北側の駐車場を立体化することで、計100台程度確保する。

#### 車両動線

幹線道路は敷地縦横二本配置する。基本的に片側一車線と歩道を確保する。また、附属中学校グラウンドと特別支援学校間の東西縦断ルートを整備し、車両出口を追加することで構内での車両の渋滞を緩和する。

#### その他

大地震等の災害時に高台への最短避難ルートを確認するため、附小及び附中グラウンド間の駐車場に避難用出口を整備する。

# 第5章 王子キャンパス

## 5-3 キャンパス整備の部門別計画

### (3) インフラストラクチャー計画

#### 基本計画について

インフラストラクチャー更新は緊急性を要するものを除き、災害に対して耐久性がないもの、耐用年数を基準に老朽化率が高いものから計画を行うこととする。  
詳細についてはインフラ長寿命化計画に基づき策定する。

※インフラ長寿命化計画：工事金額、更新範囲、緊急度等を検討し、更新計画を年次計画表にまとめたもの。

#### ■王子キャンパスのインフラストラクチャーの種類

配線・配管等 (屋外給水管、屋外排水管、屋外ガス管、屋外電力線、屋外通信線)  
設備等 (屋外照明設備、受変電設備、受水槽設備、空調設備、エレベータ設備等)

#### ■王子キャンパスのインフラストラクチャーの現状 (配線・配管等)

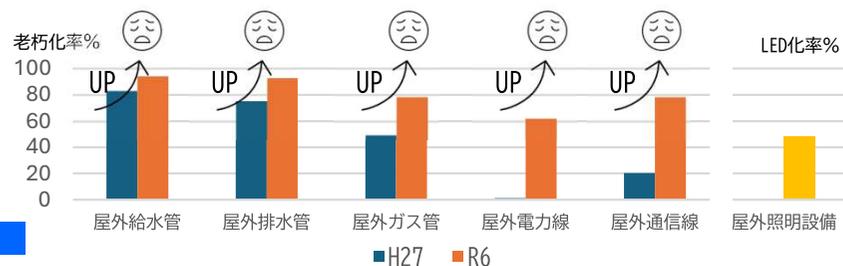
※老朽化率：「耐用年数以上の数値／キャンパス全体の数値」で表され、老朽化率が高いほど老朽化していることを示す。

※LED化率：「LEDタイプの数値／キャンパス全体の数値」で表され、LED化率が高いほど屋外照明設備にLEDが使われていることを示す。

※耐用年数 国税庁HP (主な減価償却資産の耐用年数表) より ※令和6年5月1日現在

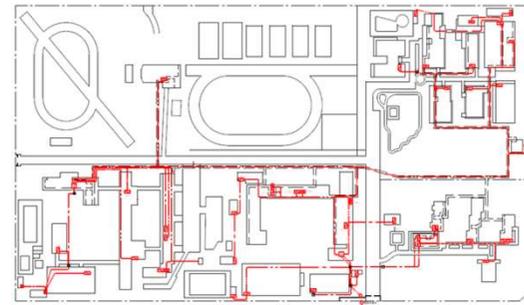
	耐用年数	キャンパス全体	耐用年数以上	老朽化率 (H27年5月当時)	老朽化率
屋外給水管	15年	2,561m	2,405m	83.0%	94.0%
屋外排水管	15年	2,054m	1,903m	75.3%	92.7%
屋外ガス管	15年	1,031m	806m	49.7%	78.2%
屋外電力線	15年	5,202m	3,225m	1.2%	62.0%
屋外通信線	15年	7,077m	5,531m	20.4%	78.2%

	キャンパス全体	LEDタイプ	LED化率 (H27年5月当時)	LED化率
屋外照明設備	27灯	13灯	0%	48.1%

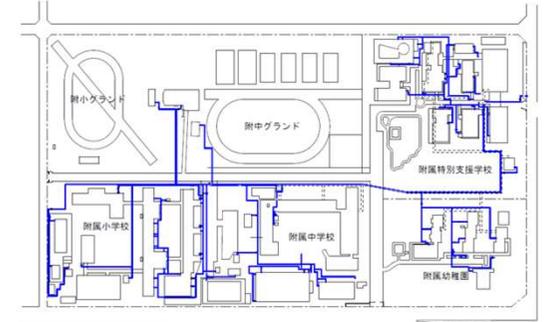


老朽化率：62.0% (⚠️)  
※早期の更新が求められる

老朽化率：94.0% (⚠️)  
※早期の更新が求められる



<屋外電力線配置図>



<屋外給水管配置図>

#### ■王子キャンパスのインフラストラクチャーの現状 (設備等)

##### (受水槽設備)

王子キャンパスの受水槽設備は、経年30年以上過ぎているものがあり、老朽化が認められる。



屋外受水槽設備

##### (エレベータ設備)

王子キャンパスのエレベータ設備は、現行の法基準に適合しない既存不適格の機器が一部残っており、早期の適合機への更新が求められる。



エレベータ設備

##### (空調設備)

王子キャンパスの空調設備は、国内生産終了となったR22冷媒を使用した空調機がわずかに残っており、故障が発生した場合、修理が困難となるため更新が急務である。



R22冷媒を使用した空調室外機

# 第5章 王子キャンパス

## 5-3 キャンパス整備の部門別計画

### (4) 施設整備計画(2028)

#### 施設整備の成果とこれから

王子キャンパスの施設整備計画として、キャンパスマスタープラン2016における2024年までの実績および最終年である2028年までの実施計画を示す。

凡例 ※令和6年5月1日現在

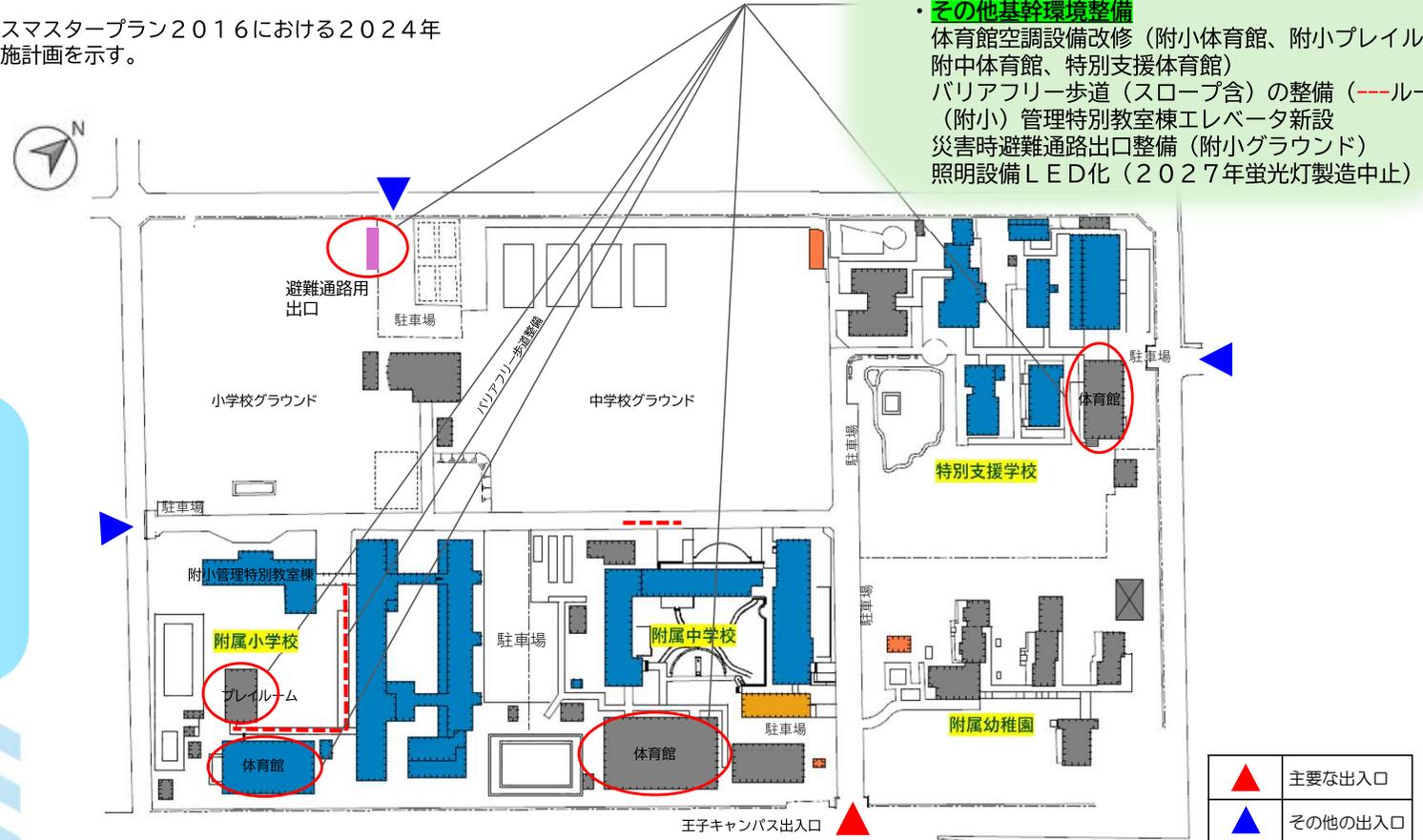
経年10年未満		
経年10年以上20年未満		
経年20年以上30年未満		
経年30年以上	未改修	
	内部改修済	

#### ◆ 2024年までの実績 ◆

- ・老朽施設の全面改修 → 実施2棟  
肢体訓練室  
附小管理特別教室棟
- ・その他基幹環境整備  
(附中) 管理特別教室棟エレベータ改修  
(附中) 構内道路及び側溝改修

#### ◆ 2028年までの計画 ◆

- ・インフラストラクチャー整備  
ライフライン再生(給排水管、ガス管、受水槽、電力線、通信線)
- ・その他基幹環境整備  
体育館空調設備改修(附小体育館、附小プレイルーム、附中体育館、特別支援体育館)  
バリアフリー歩道(スロープ含)の整備(---ルート)  
(附小) 管理特別教室棟エレベータ新設  
災害時避難通路出口整備(附小グラウンド)  
照明設備LED化(2027年蛍光灯製造中止)



	2016年	2024年	2028年	2034年	2040年
キャンパスマスタープラン策定・見直し状況	▼ キャンパスマスタープラン2016策定	▼ キャンパスマスタープラン2024見直し	▽ キャンパスマスタープラン2028策定	▽ 見直し	▽
キャンパスマスタープラン2016計画	2024年までの実績		2016 OUTPUT		
キャンパスマスタープラン2028計画	キャンパスマスタープラン2028				

# 第5章 王子キャンパス

## 5-3 キャンパス整備の部門別計画

### (4) 施設整備計画(2028)

#### 施設整備対象施設等の概要

計画の一部を掲載

#### キャンパス整備

① 2028年までに向けた施設整備計画として、附属四校園の体育館へ空調整備を整備し、快適空間づくりを行う。



(附小) 体育館室内



(特支) 体育館室内

③ 附小及び附中グラウンド間の駐車場に避難用出口を整備し、災害時の避難ルートの整備を行う。



(附小) 避難通路出口の整備場所

② 附小管理特別教室棟から体育館へのバリアフリー整備を行い、ユニバーサルデザインを推進する。



バリアフリー歩道整備場所 (石畳)



バリアフリー歩道整備場所 (体育館までの段差解消)

④ ライフラインの更新として、受水槽設備の更新を行う。



(附中) 受水槽設備

# 第5章 王子キャンパス

## 5-3 キャンパス整備の部門別計画

### (5) 施設整備計画(2040)

#### 王子キャンパスの施設整備計画（～2040年）

2040年までの将来プランとして、各個別計画で謳った計画等を推進する。老朽化施設の改修やライフライン等の整備についても、施設の状況を把握し、性能維持改修を行っていく。この計画推進により、王子キャンパスのすべての園児、児童、生徒に、インクルーシブ社会に向けた幅広い学びの機会を提供するとともに、安全で健康的な教育環境を構築していく。また、附属校園における研究成果について、地域への発信を促進しうる環境を整備していく。

#### ★駐車場の整備

駐車場不足のため、メインストリートに縦列駐車をする場合があり、安全安心なキャンパス整備のため、附属小学校北側の駐車場を立体化し、計100台程度の駐車スペースを確保する。

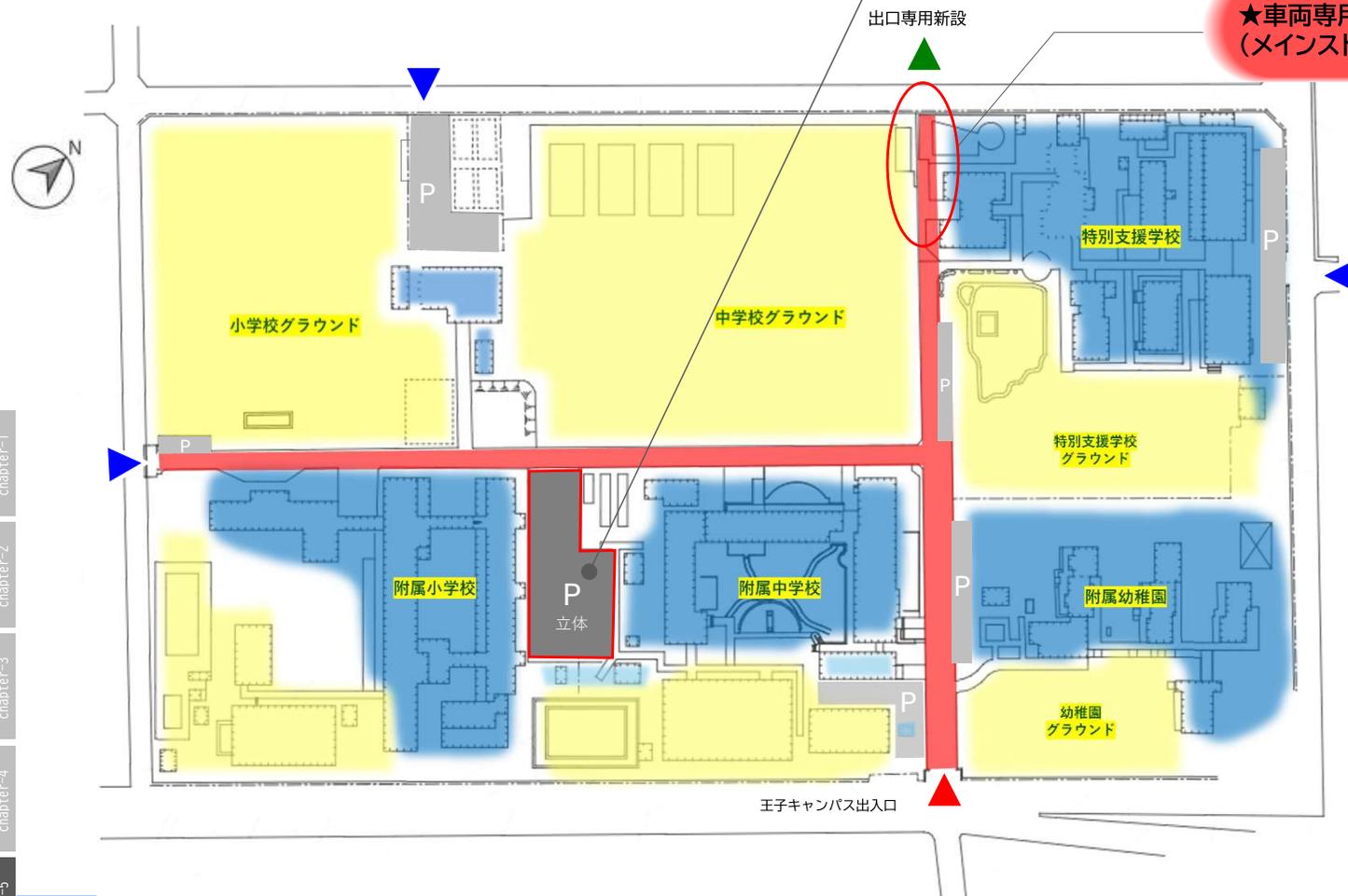


現在の小学校北側駐車場

#### ★車両専用出口整備 (メインストリート東西縦断)



現在の左図赤丸部の行き止まり状況



#### 凡例

教育研究施設ゾーン	
運動施設ゾーン	
施設管理ゾーン	
メインストリート	
主要な出入口	
上記以外の出入口	
現在の駐車場	
将来の駐車場	

參考資料

## 【文部科学省参考文献】

### ■戦略的なキャンパスマスタープランづくりの手引き ―個性と魅力あふれるキャンパスの形成を目指して―

(平成22年3月 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室)

・戦略的なキャンパスマスタープラン 表紙・目次・はじめに・基本編

[http://www.mext.go.jp/component/a.menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294402.1.1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a.menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294402.1.1.pdf)

・戦略的なキャンパスマスタープラン 実践編

[http://www.mext.go.jp/component/a.menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294403.1.1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a.menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294403.1.1.pdf)

[http://www.mext.go.jp/component/a.menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294403.2.1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a.menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294403.2.1.pdf)

### ■キャンパスの創造的再生 ～社会に開かれた個性輝く大学キャンパスを目指して～

(平成25年3月 国立大学等のキャンパス整備の在り方に関する検討会)

[http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/\\_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.1.pdf](http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.1.pdf)

[http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/\\_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.2.pdf](http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.2.pdf)

[http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/\\_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.3.pdf](http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.3.pdf)

[http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/\\_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.4.pdf](http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/_icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431.4.pdf)

### ■国立大学等キャンパス計画指針

(平成25年9月 文部科学省大臣官房文教施設企画部)

[http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/\\_icsFiles/afieldfile/2013/09/20/1339802.1.1.pdf](http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/_icsFiles/afieldfile/2013/09/20/1339802.1.1.pdf)

[http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/\\_icsFiles/afieldfile/2013/09/20/1339802.2.2.pdf](http://www.mext.go.jp/a.menu/shisetu/kokuritu/_icsFiles/afieldfile/2013/09/20/1339802.2.2.pdf)

### ■第5次国立大学法人等施設整備5か年計画

(令和3年3月 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部)

[https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt\\_keikaku-000013601-2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_keikaku-000013601-2.pdf)

### ■我が国の未来の成長を見据えた「イノベーション・コモンズ(共創拠点)」の更なる展開に向けて

(令和5年4月 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部)

[https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt\\_keikaku-000029378.01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_keikaku-000029378.01.pdf)

[https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt\\_keikaku-000029378.02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_keikaku-000029378.02.pdf)

### ■国立大学改革方針

(令和元年6月 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部)

[https://www.mext.go.jp/a.menu/koutou/houjin/\\_icsFiles/afieldfile/2019/06/18/1418126.02.pdf](https://www.mext.go.jp/a.menu/koutou/houjin/_icsFiles/afieldfile/2019/06/18/1418126.02.pdf)

## 【国土交通省参考文献】

### ■2040年、道路の景色が変わる ～人々の幸せにつながる道路～

<https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf>

### ■官庁営繕におけるユニバーサルデザインの実現を目指した取組み

<https://www.mlit.go.jp/common/001086299.pdf>

### ■グリーンインフラストラクチャー ～人と自然のより良い関係を目指して～

<https://www.mlit.go.jp/common/001179745.pdf>

## 【環境省参考文献】

### ■身近な自然も対象に「自然共生サイト」

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/30by30kyousei-pamp.pdf>

## 【大分大学参考文献】

### ■大分大学憲章

<https://www.oita-u.ac.jp/category/aim.html>

### ■大分大学ビジョン2040

<https://www.oita-u.ac.jp/data/vision.html>

### ■国立大学法人大分大学の第4期中期目標・中期計画

<http://www.oita-u.ac.jp/13joho/johokokai/hojnjoho-gyomu.html>

### ■学章(シンボル)

<https://www.oita-u.ac.jp/category/gakusho.html>

### ■大分大学概要

<https://www.oita-u.ac.jp/data/gaiyo.html>

### ■環境報告書

<http://www.oita-u.ac.jp/13joho/johokokai/hojnjoho-kankyo.html>

■編集・発行

国立大学法人大分大学 財務部施設企画課

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

TEL 097-554-7495

発行日 2025年3月